臨牀實驗

余等ノ結核免疫元「コガミゲン」(Koganigen)ニ依ル治療實驗

醫學博士　鴻上慶次郎
高橋　進

目次

緒言
第一章　「コガミゲン」製出法
第二章　「コガミゲン」ノ性狀
第三章　「コガミゲン」ノ動物實驗
第四章　「コガミゲン」ノ結核人體ニ於ケル實驗
第五章　潛在性結核患者ニ於ケル「コガミゲン」治療成績
第六章　腺病型或ハ滲出型體質ヲ有スル小兒ニ於ケル治療成績
第七章　肺結核以外ノ結核性疾患ニ對スル「コガミゲン」ノ治療成績
第八章　「コガミゲン」並ニ其ノ注射ニ關スル注意事項
綜括

緒言

余等ハ久シク結核早期診斷ヲ目的トシテ補體結合反應ノ研究ト實驗トニ苦心シタル結果、最近ニ及ンデ、漸ヤク「アンチゲン」性ノ最モ鋭敏ニシテ、且ツ其ノ能働力ニ於テモ、毎常一定セルモノヲ製出シ得ラル、方法ニ成功シタルコトハ既ニ報告シタ處デアツテ[1]、余等ノ製出セル免疫元ハ、試驗管内ニ於ケル補體結合性免疫元トシテハ眞ニ强力鋭敏ナル能働力ヲ發揮スルモノデアルガ、之ヲ人體或ハ試驗動物ニ使用シテ如何ナル作用、或ハ影響ヲ及ボスモノデアルカ、果シテ試驗管内ニ於ケル實驗ニ等シク、生物體内ニ於テモ亦良好ナル免疫性ヲ現シテ或ハ企動的免疫ニ成功シ、從ツテ結核

豫防上ニ有用ナルモノデアルカ、或ハ特殊刺戟療法ノ意味ニ作用シテ個體ノ既存免疫力ヲ昂進セシムルモノナルカ或ハ病竈作用ニシテ瘢痕形成等ヲ促進シテ治療上ニ效果ヲ示スモノデアルカ、或ハ又、以上ノ如キ有用ナ意味ニ作用シナイデ、却ッテ有害無效ノモノデアルカ、將又、無害、無效ノ無用ノ長物デアルカ此ノ邊ノ實驗ヲ企テタ事ガ本著ノ內容デアル。

由來、結核病ニ對スル所謂特殊製劑ナルモノガ實ニ幾數十種ヲ算スル程ニ簇出シテ居ルガ是等ノ製劑ヲ使用スル醫家ノ內ニハ、輕卒ニ附和雷同シテ、無暗ニ治療效果ヲ誇大的ニ高唱スルヤウナ者ガアルカト思フト、他方ニ於テハ治療劑ト云ヘバ、一モ二モ無ク「子ガチビスムス」ヲ押シ立テ、遮二無二ニ排擊シテ穴探シノミニ得意然タル學者ガアルガ、共ニ治病ト云フ事ニ就イテ眞摯ナ態度ヲ持ッテ居ルモノトハ云ヒ難イ。

要スルニ、醫道究極ノ目的ハ治療デアル。治療ヲ捨テ、ハ醫道ハ成リ立タナイ。余等ハ免疫元ニ就イテモ、偏セズ曲ラザル正鵠ナ批判ト判斷トヲ湖江ノ諸賢ニ對シテ切望スル次第デアル。

第一章　「コガミゲン」製出法

本免疫元ハ、既ニ報告シタ通リ、其ノ端緒ハベスレドカ氏ノ結核菌卵黃「アルカリ」水培養ニ出發シテ居ルモノデアルガ、ベスレドカ氏ノ報告セラレシ方法ニ依ッテ一%ノ苛性曹達水溶液ヲ卵黃ニ混ジテ培養基ヲ製出シテ之ニ結核菌ヲ培養スレバ、其ノ培養液中ニハ結核菌ノ發育ト共ニ舊「ツベルクリン」ニ類似シタ結核菌ノ新陳代謝毒素ガ多量ニ產生スルモノデ、此ノ事實ハ既ニベスレドカ氏一派ノ唱ヘテ居ル處デアルガ、斯カル培養液ヲ補體結合反應用免疫元トシテ使用スル時ハ、往々非常ニ強イ自家抑制作用ヲ現ハシテ來ル。且ツ自家抑制作用ノ強イ割合ニハ特殊ノ補體結合性能力ガ增サナイノミナラズ、却ッテ減弱スルモノデアルカラ、結局、補體結合反應用免疫元トシテモ甚ダ缺點ノ多イモノデ、決シテ優秀ナモノトハ云ヘナイ。最初私共ハ上記ノ如キ法ニヨッテ製出シタル免疫元ヲ人體ニ注射シテ實驗ヲ試ミタ事ガアッタガ、注射部位ニ起ル狀態、例ヘバ硬結、發赤、浸潤ノヤウナモノハ大體舊「ツベルクリン」ヲ注射シタ際ト同樣

デ、往々高熱等ヲ起シテ異狀ニ强イ全身症狀ヲ呈シテ相當ニ治療的效果ヲ認メタ例モアツタガ、惡イ影響ヲ及ボシタト思ハレルヤウナ場合モ尠クナカツタ。爾來、私共ハ卵黃培養ニ起ル此ノ色々ナ缺點ヲ除去スルコトニ苦心ヲ重ネタ結果、遂ニ每常其ノ能働力ノ一定シタ自家抑制作用ノナイ補體結合性「アンチゲン」ヲ製出スルコトニ成功スルニ至ツタ。

其ノ製出法ノ詳細ハ既ニ結核第四卷第七號(大正十五年七月)ニ報告シタ通リデアル。

次イデ、此ノ改良セラレタ補體結合性「アンチゲン」ヲ直ニ人體ニ應用シタガ、此ノモノニハ、尙ホ罕レニ少數ノ結核菌塊ガ混在セル爲ニ、時トシテハ注射部位ニ意外ニ著明ナ硬結ヲ作ツテ患者ヲ苦シメタリ、或ハ又、混在結核菌ノ爲ニ意外ニ强イ副作用ヲ認メルコトモアツタカラ、是等ノ弊害ヲ除ク爲ニ、補體結合反應用「アンチゲン」カラ完全ニ結核菌體ヲ除去スル目的デ「シャンベラン」濾過管L_2デ濾過シテ其ノ濾液ヲ治療用「アンチゲン」トシテ使用スルコトヽシ、之ニ防腐貯藏上ノ便宜ノ目的デ、〇・五%ノ比ニ純石炭酸ヲ加ヘタモノガ、卽チ余等ノ治療用免疫元デアル。

次ニ補體結合反應ニ使用スル免疫元ヲ製出スル爲ニハ、如何ナル結核菌株ヲ採ルモ常ニ其ノ能働力ガ一定シテ居ルモノデアル事ハ既ニ報告シタ處デアルガ、治療的效果ニ於テハ、結核菌株ノ相違ニヨツテ多少差異ガアルヤウニモ思ハレルガ、菌株ニヨル治療的效果ノ差異ヲ嚴密ニ比較スルト云フコトハ殆ンド不可能デアルカラ、余等ハ此ノ目的ヲ可及的ニ平等ニ果ス意味デ、東京市療養所入院中ノ肺結核患者ノ喀痰ヨリ約百餘種類ノ結核菌株ヲペトロッフ氏培養基上ニ分離培養ヲ試ミテ是等ノ菌株ノ中ニテ肉眼的竝ニ顯微鏡的ニ其ノ形態ノ特ニ目立ツテ相違セルモノ數種ヲ選出シテ、多株混合培養ヲ施シタモノカラ上述ノ法ニヨツテ治療用「アンチゲン」ヲ得ルコトヽシタ。

第二章　「コガミゲン」ノ性狀

「コガミゲン」ハ前章ニ述ベタ通リ、多株結核菌ノ「アルカリ」卵黃水培養ヨリ得タモノデ、此ノ內ニハ結核菌體ハ全ク含マレテナイ。其成分ハ培養基ニ使用セラレタ卵黃ノ外ニ、主トシテ菌體內成分カラ浸出セラレタ一種ノ體內毒素ト結核菌ノ新陳代謝ニヨツテ生ズル體外毒素デアルガ、此ノ體外毒素ノ舊「ツベルクリン」ノヤウナ作用ハ殆ド認メラレナイ。

元來、余等ノ免疫元中ニ含マル、體外毒素ハ、補體合及反應ニ際シテ意義ノ極メテ尠イモノデアルガ、治療上ニ於テモ價値ノ甚ダ尠イモノデ、治療的效果ヲ齎ラスモノハ、主トシテ培養液ヲ菌體混合ノ儘、一定期間加熱貯藏スルコトニヨツテ培養液中ニ浸出セラレタ菌體內毒素デアラウト思惟スル。

本免疫元ハ、弱兩性反應ヲ呈シ强度ノ蛋白石濁ヲ帶ビタ黃褐色ノ液デアツテ、時トシテハ管底ニ微細ナ白色粒子ヲ沈澱スルコトガアルガ、效力ニ於テハ毫モ變化ヲ認メナイ。本免疫元ノ化實的性狀ハ、培養液デアル卵黃成分ト少許ノ混入シタ卵白ナドノ如キ非特殊物質ト、結核菌體內毒素竝ニ其ノ新陳代謝物質ノ如キ特殊性物質トヨリ成ルモノデ、蛋白體乃至「リポイド」蛋白體ノ混合液デアル。

本免疫元ハ、既ニ補體結合反應ノ實驗報告ニ於テ述ベタ如ク、補體結合反應ヲ標示トシテ測定シタ「アンチゲン」性ニ於テハ煮沸、貯藏等ニ對シテ長時ニ亙ルモ殆ンド變化ヲ認メヌモノデアルカラ、恐ラク其ノ治療的效果ニ於テモ亦長期間不變ナルモノト認メテ差支ヘガナカラウ。尠クトモ五ケ年間位ハ使用ニ堪ヘ得ルモノト斷言出來ル。唯、甚ダ遺憾トスル處ハ、本免疫元ハ後章ニ述ブルガ如ク、結核動物ニ對シテ殆ンド無毒性ノモノデテルカラ、試驗動物ニ對スル毒力ノ增減ナドニヨツテ效力ノ有無判定スルコトハ出來ナイ事デアル、且又、舊「ツベルクリン」ノ如ク皮膚ノ「アレルギー」反應モ起サナイカラ、此ノ方面カラモ「アンチゲン」性ノ增減、效力ノ減弱程度ナドヲ測定スルコトモ不可能デアル。唯、效力ノ長期ニ亙ツテ不變性デアルコトハ、各種ノ物理化學的操作ニ對シテ堪ヘ得ルコト、補體結合性能力ノ不變性デアルコト、及ビ多年臨牀上ニ應用シタ實驗ニ徵シテ陳舊ナモノト新鮮ナ「アンチゲン」トノ間ニ、毫モ效力ノ相違點ヲ見出サナイ事ナドニヨツテ推論スルヨリ外ニ途ガナイ。

第三章　「コガミゲン」ノ動物試驗

由來結核治療製劑ノ效力判定ハ主トシテ動物實驗ヲ基調トシタモノデアルガ、試驗動物ニ人工的ニ惹起セシメタ結核ト、一程度ノ免疫性ヲ有スルニモ拘ハラズ自然ニ感染シテ罹患シツ、慢性的ニ經過スル人類ノ肺結核ノ如キモノトノ間

ニハ、同ジク結核ト稱スルモ、非常ナ逕庭ノアルモノデ、其ノ病型、組織反應ナドニ於テ、一般病理學者ノ認メルガ如ク、甚ダシク相違シテ居ル點ガアル、從ツテ動物實驗ヲ根本トシタ幾多ノ治療劑ガ、之ヲ人體ニ試ミタ場合ニ、案外無價値デアルト云フヤウナ事ガ在來報告セラレタ諸種ノ治療劑ノ概子踏襲シタ徑路デアツタ。

私共ハ、强チ動物實驗ナルモノヲ全然無用視スルモノデハナイガ、人類ノ結核ニ對スル治療劑ノ正鵠ナル效力判定ハ、宜シク豐富ナ人體實驗ヲ經テ初メテ完全ナモノデアルト信ズル。動物實驗上ニ於テ、效力著明ナモノガ人類ノ肺結核ナドニ必ズシモ有效デアルトハ斷言出來難イ。或ハ又、動物實驗上ニハ殆ンド影響ヲ認メナカツタモノモ、人體ニ應用シテ案外治效著シイモノガナイトモ限ラレナイ。私共ハ此ノ意味デ、本回ハ人體實驗ヲ主トシテ動物實驗ハ單ニ藥物ヲ人體ニ應用スル場合ノ基礎的豫備實驗ノ範圍ニ留メテ詳細ナ組織學的變化ノ如キモノハ、次回追ツテ報告スルコトヽシタ。

(一)「コガミゲン」ガ健康及ビ結核試驗獸ニ如何ナル影響ヲ及ボスカ、健康試驗獸トシテハ家兎及ビ海猪各六疋宛ヲ試用シタ。本實驗デ大體決定シヤウト試ミタ事ハ次ノ如キコトデアツタ。

(a)「コガミゲン」ニ由ツテ健康試驗動物ニ果シテ補體結合性抗體ヲ產生セシメ得ルヤ否ヤ。

(b)「コガミゲン」注射ニ由ツテ試驗動物ニ過敏性反應ヲ惹起セシムル場合アルヤ否ヤ。

(c)「コガミゲン」ノ毒性力如何。

等デアルガ、是等ノ結果ヲ簡單ニ述ブレバ次ノ通リデアル。

六疋ノ家兎ニハ「アンチゲン」原液一・〇瓩、二・〇瓩、三・〇瓩、六疋ノ海猪ニハ〇・二瓩、〇・五瓩一・〇瓩ノ如ク增量的ニ六日宛ノ間隔ヲ以テ靜脈或ハ皮下注射ヲ施シ、最後ノ注射ヨリ七日目ニ採血シテ補體結合反應ヲ行ツタ結果、六疋ノ家兎ニテハ血淸ノ抗體單位四〇乃至五〇〇倍ヲ示シタ、此ノ內三疋ハ旣ニ注射前カラ正常補體結合性雙介體ヲ證明シタモノデアルガ、注射前ハ何レモ一〇乃至二〇倍單位ニ過ギナカツタモノデアルカラ。「コガミゲン」注射ニヨツテ健康家兎ニ補體結合性抗體ヲ新生乃至正常抗體量ヲ增加セシムル作用ノアルコトヲ認メタ。六疋ノ海猪ニ於テハ悉ク注射前ニハ正常雙介體ヲ證明シナカツタモノデアルガ、注射後五疋ハ一〇乃至四〇位單位ノ抗體量ノ新生ヲ認メタガ一疋ノミハ

依然ト補體結合性抗體ヲ產生シナカツタ。以上ノ實驗ニ基イテ、余等ノ「アンチゲン」ハ單ニ試驗管ノ作用ノミニ止マラズ試驗獸ノ體內ニ於テモ能ク「アンチゲン」性ヲ發揮シテ補體結合性抗體ヲ產生スルモノデアルコトガ分明セラレタ。唯、海猪ハ家兎ニ比較シテ抗體ノ產出量ガ遙カニ僅少デアルコトハ一般的ノヤウデアル。

玆ニ尙ホ一ツノ問題ハ、余等ノ免疫元ヲ注射シタ場合ニ培養基液自己ニ對スル非特殊性ノ抗體ガ發生セザルヤ否ヤト云フ事デアルガ、實驗ノ結果、培養基自己ニ對スル補體結合性抗體ハ殆ンド產出シナイカ、稀レニ生ズル場合アルモ、其ノ量ハ甚ダ僅微デアツタ。

次ニ過敏性反應ニ就イテモ家兎及ビ海猪ヲ撰ンダガ、如何ナル量的關係及ビ注射間隔ヲ以テスルモ、絕對ニ試驗動物ニ對シテ過敏性狀態ヲ起スヤウナコトヲ認メナカツタ。又本免疫元ハ、健康家兎及ビ海猪等ニ對シテ、經口的乃至非經口的(靜脈或ハ皮下、腹腔內等)ニ使用シテ、殆ンド毒性ヲ認メナイ。家兎ニ於テ體重%「キロ」ニ對シテ本免疫元二・〇瓩ヲ靜脈注射トシテ隔日ニ施行シテ數回ニ及ブモ、家兎ノ體重、榮養、一般狀態等ニ對シテ何等ノ變化ヲ認メナイノミナラズ、大多數ハ體重ノ增加スルコトヲ認メタ。健康海猪ニ對シテモ亦同樣ニ殆ンド全ク毒性力ヲ示サナカツタ。

(二)結核試驗動物ニ對シテ「コガミゲン」ガ如何ナル影響ヲ示スカ

本實驗ニ於テハ大體次ノ如キコトヲ確メタ。

(a)「コガミゲン」ノ結核動物ニ對スル毒性力

(b)結核動物ノ經過或ハ病變ニ對スル「コガミゲン」ノ影響。

(c)「コガミゲン」注射ニ由ツテ試驗動物ニ免疫性ヲ發生セシメ得ルヤ否ヤ。

等デアツテ、是等ノ結果ヲ總合シテ簡單ニ述ブレバ。

家兎及ビ海猪數疋ニ就イテ本免疫元ノ原液ヲ試驗動物ノ體重%「キロ」瓦ニ對シテ二・〇瓩ヲ注射スルモ殆ンド何等ノ變化ヲ認メナイ。唯體重ハ注射後大多數ニ於テ尠シク減少スルコトガ一般デアル。故ニ本免疫元ノ注射ハ試驗結核動物ニ對シテハ直接的ニハ其ノ大量ヲ使用スルモ何等ノ毒性力ヲモ現ハサナイモノデアルト認メテヨロシイ。

「コガミゲン」ガ結核動物ノ全經過或ハ病變ニ對シテ如何ナル影響ヲ與フルモノデアルカト云フ問題ニ就イテハ、結核菌接種後注射ヲ開始スル迄ノ間隔、注射量、注射ノ間隔等ノ相違ニヨツテ甚ダシク異ツタ結果ヲ生ジタ。

注射液ノ多量ニ過ギタ場合、(家兎ニ對シテハ初量百倍液〇・一瓩ヨリ增量的ニ原液〇・五瓩ニ及ビ、海猪ニテハ、初量千倍液ヨリ增量的ニ原液〇・一瓩ニ及ベルモノ)デ注射ノ間隔ヲ一週日間トシタモノデハ、感染後ノ日數ノ如何ヲ論ゼズ注射動物ガ對照動物ニ比較シテ生存期間ノ短イモノガ多クテ剖見上デハ、却ツテ、肺、腎、肝、脾、臓、肋膜、腹膜、淋巴腺ナドノ結核病變ガ廣汎ナルコトヲ示シタガ、唯茲ニ注射動物ト對照動物トノ間ノ結核病變ニ就イテ特ニ相違シタ肉眼的ノ所見トシテハ、注射動物ニ於テハ或ル一局部ニ於ケル結核病變ガ著シク結締組織ノ增殖セル傾囘ヲ示ス事デアツタ。

次ニ注射量ノ尠イ場合(家兎體重%「キロ」ニ對シ一千萬倍溶液〇・一瓩ヲ初量トシテ一週日間毎ニ漸次ニ增量)ニ於テハ試驗動物ガ對照動物ニ比較シテ大多數生存期間ガ永ク、結核病竈ノ範圍モ對照動物ヨリモ狹少デアル計リデナク、往々試驗動物ニハ肉眼的ニハ何レノ臓器ニモ結節ナドヲ認メ得ナイモノガアツタ。

卽チ試驗動物家兎五疋ノ内二疋ハ三ケ月後撲殺シタガ、肉眼的ニハ何等結核病變ヲ認メナイガ對照動物ニテハ悉ク結核病變ヲ認メタ。由是觀之、本免疫元ハ或ル一定量ニ於テハ結核羅患動物ニ對シテ結核菌ノ發育ヲ抑制シテ病竈ノ擴大スルコトヲ防ギ或ハ治療的效果ヲ示スモノデアルコトヲ疑フ餘地ノナイ處デアル。

更ニ本免疫元ヲ重湯煎上ニ蒸發乾燥セシメテ結核羅患試驗動物ニ經口的ニ一定量宛ヲ毎日與ヘタモノハ對照動物ヨリモ悉ク生存日數ガ永イト云フ事實ヲ認メタカラ結核羅患海猪ナドニ對シテハ免疫元ヲ乾燥シテ粉末狀態トシテ經口的ニ與フルモ多少好影響ヲ示スモノデハナイカト思ハレル。

第四章　「コガミゲン」ノ結核人體ニ於ケル實驗

(一)現示性ノ著明ナ肺結核ニ於ケル實驗。

本實驗ニ供シタ患者ノ總數ハ四十五名デアルガ、ゲルハルド氏等ノ分類ニ據レバ第一期七例、第二期一三例、第三期二十五例デアッテ、病型カラ觀察スルト浸出型三十二例、增殖型一三例、病狀ヲ云ヘバ進行性三十五例デ停止性一〇例ノ割合デアル。

是等ノ患者ニ對シテ各々其ノ病狀、病型等ニ應ジテ初量百萬倍乃至一萬倍溶液〇・一ヨリ大體一週間ノ間隔デ約一ケ年乃至最短四ケ月間治療ヲ施シタ結果ハ第三表ニ示スガ如ク第一期七例中殆ド全治ト認メタモノ四例、甚ダシク輕快シタモノ三例デ、第二期十三例中、臨牀的治癒ノ狀態ニ達セルモノ四例、著シク輕快セルモノ五例、不變三例、增惡一例、第三期二十五例中、臨牀的治癒ノ狀態ニ達セルモノ一例、著シク輕快セルモノ七例、不變一四例、增惡三例ノ成績ヲ得タ。

肺結核患者ニ於ケル「コガミゲン」治療成績

		治癒率	輕快率	不變率	增惡率
四五例	第一期 七例	五七・〇%	四三・〇%	—	—
	第二期 一三例	三一・〇%	三八・〇%	二三・〇%	八・〇%
	第三期 二十五例	四・〇%	二八・〇%	五六・〇%	一二・〇%

病型カラ見ルト、勿論增殖型ノ方ガ滲出型ノモノヨリモ治療成績ガヨロシイガ、滲出性ノモノガ必ズシモ注射ニ對スル禁忌デナイノミナラズ、病竈ノ範圍ノ狹イ極ク新鮮ナモノデアルト却ッテ滲出型ノ方ガ治療的效果ガ目醒マシク早イコトガアル。病狀カラ云ッテモ進行性ノモノニ却ッテ偉效ヲ奏スル事ガアル。

以上ハ大體ニ就イテノ治療成績デアルガ、次ニ是等ノ患者ニ對シテ行ッタ臨牀的並ニ實驗室內檢索ノ結果ニ就イテモ綜括的ニ批判ヲ試ミテ見ヤウ。

1、熱

一般ニ熱ニ對シテ速效ヲ期シ難イ事ハ勿論デアルガ、種々ナ對症的ノ解熱方法ヲ講ジテ尙ホ且ッ解熱ノ目的ヲ達シ得ナイヤウナ結核熱ニ對シテ注射ヲ重ヲルト、次第ニ解熱ノ目的ヲ達シ得ラレルコトガ多イ。

結核熱ナルモノニ對シテハ其ノ本態ガ今尚ホ充分ニ闡明セラレナイガ、尠クトモ結核毒素ノ吸收ト關係ノアルコトダケハ何人モ疑義ヲ容レナイ處デ、人工氣胸術デ結核熱ノ解熱スルコトモ毒素吸收ノ減少スル爲デアルト解釋セラレテ居ル。從ツテ今結核患者ニ或ル治療ヲ施シテ次第ニ解熱シテ遂イニ永久的ニ無熱ノ狀態ニ達シ得タリトスレバ、該治療劑ハ恐ラク病竈ニ作用シテ、治癒的ニ作用シタ結果、抗原性物質或ハ病竈破壞組織ノ血行吸收率ガ減退シタ結果デアルト看做スガ至當デアラウ。從ツテ結核患者ニ特殊製劑ノ如キモノヲ以テ治療ヲ施シテ解熱ニ向ヘルモノハ解熱、卽チ治癒ニ向ヒツヽアルコトヲ意味スル場合ガ多イ。解熱劑ノ投與ニヨリテ溫ノ產生、發散度ヲ調節セシメテ解熱セシメタ場合ノ如キ對照的ノモノトハ意義自ラ異ナルモノデアル。本免疫元ニヨツテ容易ニ解熱シ難イ熱型ハ增殖性變化ヲ主トシタ至極慢性的ニ經過スル肺結核デ殆ンド每日ノ如ク三十七度二三分ノ日哺潮熱ヲ示スモノデアツテ、斯クノ如キ患者ハ元來多クノ場合ニ發熱ガ結核毒素吸收ニ由來シテ居ナイ場合ガ多イ。溫中樞ノ刺戟性ガ亢進シテ溫ノ產生ガ多イカ、或ハ神經ノ作用デ皮膚カラノ體溫發散ガ阻害セラレテ溫ノ貯留ヲ招致スル爲ナドデアルカラ、斯カル患者ノ發熱ハ必ズシモ病的ノモノトハ解釋出來ナイデ寧ロ當人ニ取ツテ是ガ正常ノ體溫調節デアルカノ如ク變調ヲ來タシテ居ルモノト看做ス可キモノデ、斯クノ如ク永年慣性ノ如クナツタ僅微ノ常習的體溫ノ上昇ヲ普通ノ溫調節ニ返ス爲ニハ是非トモ適切ナ解熱劑ノ持久ト共ニ本免疫元ノ注射ヲ相當長期ニ亙ツテ併行シナケレバ解熱ノ目的ヲ達スルコトガ出來難イコトハ屢〻アル。

本免疫元注射ニ依ツテ解熱ノ效ヲ達シ得ル場合ニハ次第ニ朝夕ノ體溫ノ差ガ僅少トナリ、次イデ無熱日ト有熱日トガ互ニ交代スル狀態ヲ示シ、次第ニ全ク無熱ノ域ニ達スルコトガ多イ。

(2)喀痰及ビ咳嗽

喀痰ノ量ガ注射ノ當初ニ於テ却ツテ增加スル者モアルガ、反對ニ初メカラ急速ニ減少スルモノモアル。氣管枝喘息ナドヲ合併セルモノデハ特ニ注射當初カラ喀痰量ガ著明ニ減少スル。注射ノ進ムニ連レテ殆ンド例外ナク喀痰ノ分泌ガ減少スルモノデアル。咳嗽モ略〻喀痰ト同樣ノ狀態ヲ示スコトガ多イ。

(3)血痰及ビ喀血

從來一般ニ「ツベルクリン」其他特殊製劑或ハ沃度製劑ノ如キモノハ血痰或ハ喀血ノアル患者ニ對シテハ禁忌トセラレテ居ルガ、近頃血痰或ハ喀血ナドニ各種ノ刺戟療法ヲ推賞セラレル學者モアルガ、其ノ是非ハ兎モ角モ、自分等ノ免疫元ハ久シク多數ノ喀血患者ヤ血痰ノアル者ナドニモ何ノ躊躇モナク使用シタガ、決シテ有害ニ作用シタト思ハレタ場合ガナイノミナラズ、却ツテ常習性ノ血痰排出患者ナドニ本注射療法ヲ持續シテ居ルト次第ニ血痰排出ノ度數ガ減ジテ遂ニ血痰ヲ認メナクナルコトガ大多數デ、喀血ノ場合ニモ顧慮ナク行ツテ居ルガ多クノ場合ニ無事ニ止血スルカラ余等ノ從來喀血ノ場合ニハ寧ロ一ツノ最モ有力ナ止血法ト心得テ居ル。

(4)盜汗ト惡寒。

本免疫元注射ニヨツテ盜汗ガ卒然トシテ絶止スルコトガ往々アルガ、罕レニハ盜汗ノ無カツタ者ガ注射ノ當初盜汗ガアルト告ゲルヤウナ場合ガアルガ、好ク問ヒ糺シテ見ルト盜汗デハナクテ、唯汗バムト云フニ過ギナイノデアル。一般ニ注射ノ回數ヲ重ヌルニ從ツテ盜汗ノ消失乃至減少ヲ認メルモノデアル。

本免疫元注射ニ依ツテ新タニ惡寒ヲ惹キ起スト云フコトハナイガ、最初カラ惡寒ノアルヤウナモノハ本免疫元注射ガ殆ンド無效ニ終ツテ次第ニ增惡シテ豫後不良デアルガ、唯罕レニ臨牀上ノ所見カ甚ダ尠クテ然カモ惡寒ニ高熱ヲ發シ宛モ腸「チフス」或ハ肺炎ヲ疑ハシムルガ如キ結核デ病型トシテハ甚ダ危險性ヲ帶ビテ居ルヤウナ者ニ本免疫元ヲ注射スレバ刻々ニ下熱シテ惡寒モ去ツテ病勢日ヲ追ツテ佳良ニ趣ク場合ガ屢〻經驗セラルヽ處デアル。

(5)尿

異種蛋白或ハ蛋白「リポイド」製劑ヲ非經口的ニ注射スレバ滲漏液ノ排泄ヲ佳良トナラシメ、其ノ爲ニ尿量ガ增加スルト云ハレテ居ルガ、本免疫元ヲ肋膜或ハ腹膜炎患者ニ使用スルト、實際利尿作用ガアツテ、滲漏液ガ次第ニ減少シテ病狀ガ佳良トナル場合ガ多イ。此ノ事實ハ既ニ佐藤軍醫モ實驗セラレテ報告ナサレテ居ル。(2)

(6)便通。

慢性下痢(腸結核ニ非ザル)ノ者或ハ下痢ト便祕ト交代スルヤウナ者ニ、本免疫元ヲ長時ニ亙ツテ注射スル場合ニハ次第ニ症狀ハ消失シテ正常ニ復スルコトガ多イ。斯カル患者ハ多クハ潛在結核者デアル。

(7)體重

是ガ本免疫元注射治療上、特ニ注目ス可キ點デアツテ、殆ンド悉ク體重ノ增加ヲ示スモノデ、余等ノ實驗シタ肺結核患者ニ於テモ五百目乃至四貫目ノ增加ヲ認メタ。體重ノ增加ハ現示性ノ肺結核患者計リデナク、後章ニ述ブルガ如キ潛在性結核、滲出性體質ノモノ、或ハ殆ンド健康狀ニアルモノニ於テモ同樣デアル。

(8)睡眠

注射ノ當初ニ於テハ屢〻睡眠ノ不良ヲ訴フルモノガアルガ、注射ノ回數ヲ重ネ榮養ガ次第ニ良好トナルニ從ツテ、睡眠モ漸次ニ良好トナル場合ガ多イ。

(9)食慾。

睡眠ト同樣ニ注射ノ初メ二三回ハ食慾ノ却ツテ減少スルコトヲ訴ヘルモノモアルガ、注射回數ノ進ムト共ニ甚ダ食慾ノ增スモノガ多イ。

(10)皮膚

本免疫元注射中ニ於テ、外觀上最モ注目セラルヽ點ハ、顏貌皮膚ノ色澤ノ佳良トナルコトデアツテ、蒼白色乾涸シタ皮膚ガ、次第ニ其ノ色澤ヲ增シ、生氣ニ漲ル狀態トナルコトガ多イ。

(11)局所ノ臨牀的所見ノ變化

本免疫元注射ニ由ル局所ノ理學的所見ノ變化ハ樣々デアツテ、初メカラ囉音ガ次第ニ減少スルモノモアルガ、是ト反對ニ、一時囉音ガ却ツテ增加スルモノガ多イ。一般ニ乾性囉音ハ本免疫元注射ニヨツテ急速ニ消失スルコトガ多イ。粗糙音或ハ氣管枝音ナドノ存在セル場合ニ、本免疫元ヲ注射スルト、該部ニ新タニ濕性囉音ヲ聽取スルニ至ルコトガ屢〻デアルガ、注射ヲ續行スルト次第ニ此ノ囉音ハ消失シテ粗糙音或ハ氣管枝音ナドモ甚ダシク緩解セラレルモノデアル。

本免疫元ニヨツテ濕性囉音ガ消失スル場合ニハ、大體次ノ如ク大水泡音—中水泡音—小水泡音—捻髮音—乾性囉音—囉音消失—呼氣ノ延長……ノ如キ經過ヲ取ルコトガ普通デアル。

以上ノ如キ囉音ノ變化ハ、臨牀上カラ觀テ、結核病竈ガ結締組織ノ增殖ヲ促シ、瘢痕治癒ヲ營ミツヽアル證據デアルト看做ス可キデアラウ。

如述セル處ハ、大體臨牀的方面ニ係ル「コガミゲン」注射ノ影響デアルガ、以下實驗室內ニ於ケル檢索ノ結果ヲ略述シテ見ヤウ。

(1)喀疾

彈力纖維ガ著明ニ減少スルコトハ破壞作用ノ減退シタ證據デ、次第ニ良經過ヲ取リツヽアルモノデアルト看做ス可キデアル。喀痰內ノ結核菌數モ次第ニ減少乃至消失スルノガ一般デアルガ、時トシテハ注射ノ當初一時結核菌ガ非常ニ增スコトモアル。結核菌ノ排列ガ比較的正規的デ、屢〻相凝固シテ存在スルコト、細胞內ニ介在スル結核菌ガ增加スルコトナドガ著明ナ變化デアル。

(2)赤血球沈澱速度ノ測定

治療期間中及ビ治療後共ニ大多數ノ者ハ治療前ニ比較シテ沈降速度ガ遲延セラルヽヲ認メタ。

(3)余等ノK.A.反應

本反應モ大體赤血球沈降速度ト同樣ニ大多數ハ凝析反應度ガ減弱シテ豫後佳良トナリツヽアルコトヲ認メタ。

(4)補體結合反應

補體結合反應上ニハ相反セル二樣型デアル。一ツハ治療ノ進行ト共ニ次第ニ補體結合度ハ減弱シテ遂ニ陰性トナルモノト、他ハ治療中却ツテ患者ノ一般狀態ガ佳良トナルニ拘ハラズ、補體結合反應度ハ減弱シナイデ益〻增强スルモノガアル。前者ニ屬スルモノニハ、完全治癒ヲ意味スルモノト反對ニ豫後ノ次第ニ不良ニ向ヒツヽアルモノトガアル。後者ニ屬スルモノハ、悉ク豫後ノ佳良ニ向ヒツヽアルコトヲ意味スルガ、未ダ病竈ノ完全治癒ニ及バザルコトヲ示ス者デア

ル。是等ノ者モ一旦增强シタ補體結合反應度ガ遂ニ次第ニ減弱シテ陰性ヲ示スニ至ルモノデ、此ノ時期ハ病竈ノ完全閉鎖――卽チ臨牀上ニモ全治ヲ意味スルモノデアル。

(5)喰菌現象

本免疫注射ニヨツテ、喰菌率ガ次第ニ昂騰スル。余等ノ觀察シタ肺結核患者ニテハ、治療前殆ド悉ク喰菌率ハ一・〇以下ヲ示シタモノデアアルガ、治療經過中及ビ治療後ニ於テ喰菌率ガ概子一〇乃至三・〇迄ニ上昇スルコトヲ認メク、本疫元注射ニヨツテ一旦獲得セラレタ喰燼機能ノ亢進ハ注射ヲ中止スルモ、久シク保留セラレル。又本免疫元注射ニヨリテハ著明ナ陰性期ノ出現ハ認メナイ。

(6)血球像竝ニ血色素上ノ變化

血球像ノ點カラ觀テ、白血球像ハ著明ナ變化ガ認メラレナカツタガ、血色素量ガ六〇・〇乃至七〇・〇%ノモノガ一〇〇乃至一一〇・〇%ニ增加ヲ示スモノガ多カツタ。是ト共ニ、赤血球數ガ三・五〇〇〇〇〇乃至四・九〇〇〇〇〇ヨリ六・五〇〇〇〇〇乃至八・七〇〇〇〇〇ニ增加スル。

之ニ因ツテ、本免疫元ノ注射ガ造血臟器ニ作用シテ其ノ機能亢進ヲ促スモノデアツテ、特ニ赤血球ノ產出及ビ血色素量ノ著明ナ增强ヲ來タスコトハ明白デアル。

(7)「レントゲン」像ノ變化

治療後著明ナ石灰化像ガ多數ニ現レタモノ、濃厚ナ陰影ガ甚ダ稀薄トナツタモノ或ハ滲出型ノ像影ガ增殖性ノ傾向ヲ帶ブルニ至ツタモノナドガアツテ、一般ニ「レントゲン」像ノ上ニモ著明ニ良經過ヲ示シタト思ハレルモノガ多數ニアツタ。

(8)皮膚ノ「アレルギー」檢査

本免疫注射ニ由ツテ次第ニ皮膚ノ舊「ツベルクリン」ニ對スル「アレルギー」狀態ガ減弱シテ遂ニハ陽性「アヲルギー」狀態ヲ示スニ至ツタモノガ屢〻アツタ。

第五章　潛在性結核患者ニ於ケル「コガミゲン」治療成績

臨牀上カラ明カニ病竈部位ヲ發見スルコトガ出來ナイガ、患者ノ一般狀態及ビ主訴ニヨツテ結核ヲ疑ハシムルモノデ、補體結合反應或ハ「ツベルクリン」皮下注射反應ガ强度ニ現ハレルヤウナ者ヲ、余等ハ治療ノ必要ヲ認ムル潛在性結核患者ノ標準トシタ。斯カル種類ノ結核ニ屬スルモノデ、治療ヲ施シタモノハ二百六例ニ達シテ居ルガ、其ノ結果ハ誠ニ滿足ス可キ程度ノモノデアツテ、殆ンド悉クノ者ガ大小ニ拘ラズ、體重ガ增加シテ榮養狀態ガ增進スルコトヲ認メタ。諸種ノ神經性症狀ガ除去セラレル消化障碍ガ恢復スル。殆ンド異口同音ニ「スツカリ風ヲ引カナクナツタ」「倦怠感ガナクナツテ耐忍力ガ出來タ」ト云フコトヲ告ゲル。

元來「風ヲ引キ易イ」「倦怠感ガアル」ト云フ事ハ、結核早期乃至萠芽期、潛伏期ニ現ハレル二大主訴デアツテ、此ノ症狀ガ跡方モ無ク取リ去ラレルト云フ事實ハ、取リモ直サズ、結核病竈ガ完全ナ治療狀態ニ達シタト云フ證據ニ外ナラナイ。

余等ハ本免疫元治療ニ就イテ時ニ諸彥ノ御注意ヲ喚起イタシ度キコトハ、早期乃至潛在性結核ニ就イテヾアル。

云フマデモ無キ事乍ラ、結核治療ノ分岐點ハ一ツニ懸ツテ其ノ病期ニアル。特殊治療ノ偉效モ病嫩ノ時代ニ在ツテ初メテ著明ニ現ハレルモノデ、病既ニ膏肓ニ入ツテハ如何ナル神藥ト雖モ奏效全カラザルハ啻ニ結核病ノミニ限ラレナイ。所ニ結核治療上ニ偉大ナ實績ヲ上ゲヤウト庶幾スルナラバ、其ノ第一要件トシテ最モ早期ニ結核ヲ診斷スルコトガ大切デアル。適應症ヲ撰バズ、唯盲目滅法ニ、特殊製劑ノ治療ナドヲ企テ、輕率ニ其ノ效果ヲ論斷シテ恬トシテ恥ヂナイモノガアルガ、大イニ心ス可キコトデアラウト信ズル。可及的早期ニ發見シテ治療ヲ施スト云フコトハ、誠ニ徹底シタ事デ、進行シタ結核ニ於テハ特別ニ效果ノアル治療法ナドガ有リ得ナイトスレバ早期治療ト云フコトヲ痛感シテ然ル可キダト思フ。

尙ホ潛在性結核ノ治療ニ就イテ附記シ置キ度キコトハ、治療ノ當初ニ於テハ却ツテ肩ノ凝ナドガ增加シテ、胸廓腔內ニ不定ノ痛ミガ起ツテ來ルト訴ヘル者ガ相當ニ多イヤウデアリマスガ、是等ハ潛在竈ト注射免疫元トガ互ニ相反應スル爲

デ、謂ハヾ陳舊ナ病竈ノ改造ニ當ツテ當然起ル可キ一小波瀾デ、注射ノ續行ト共ニ次第ニ消退スルモノデアルカラ、敢テ意ニ留メル必要ガナイ。以下著者等ノ治療シタ潛在結核患者ノ內數例ヲ揭ゲテ如何ナル程度ノモノデアルカヲ御參考ニ供シテ置ク。

第一例。[redacted]五十歳 ♂。

患者ハ二十歳ノ時ニ母ガ結核性ノ疾患デ死亡シタ。其他ニハ家族史中ニハ結核ニ對スル素因的關係トシテ特筆スルコトガナイ。

患者ハ小兒期ヨリ蒲柳虛弱ノ質デアツタガ、二十四歳ノ時ニ淋疾ニ患ツタ事ト、二十六歳ノ時ニ腸窒扶斯ヲ經過シタ以外ニハ著患ヲ知ラナイ。

數年來胃腸ノ障碍ガアツテ時々胃部ニ不定ノ鈍痛ヲ感ズル、固形食ヲ攝ルト特ニ胃部ニ壓重ノ感ガ多イ、食慾ガ不振デ、下痢ト便祕トガ交代的ニ起ツテ來ル。體重モ決シテ增加シナイ。最近一ケ年間咳嗽(特ニ夜間)ヤ小量ノ喀痰ヲ出スヤウニナツタ。風ヲ引キ易クテ對談後ニモ容易ニ音聲ガ疲レテ微弱ニナル。或ハ嘶嗄ヲ起シテ來ル、電話ノ際ナドハ特ニ息切レガスル。從來數多ノ醫家ノ診斷ヲ煩ハシタガ。內臟下垂デアルトカ、或ハ神經表弱症デアルトカ試斷セラレテ治療ヲ受ケタガ一向苦訴ハ歇マナイ。

患者ヲ診ルニ榮養ハ佳良デナイ。皮膚ガ汚穢蒼白色デ生氣ガナイ。體軀モ稍〻癆瘵性ヲ示シテ居ル。運動後ニハ往々體溫ガ三十七度二三分マデ上昇スルコトガアルガ、先ヅ無熱ノ日ガ多イ。胸部ヲ精査シタガ殆ンド變化ヲ認メナイ。唯右肺尖部ニ輕度ノ短縮音ガアツテ呼氣ガ延長シテ居ルコト、、左第三肋間腔ノ胸骨線ニ近イ處デ呼吸音ガ尠シク粗糙デアルガ、是ガ果シテ活動シテ居ル結核病竈デアルカ否カ判別ガ出來難イ。「レントゲン」檢査モ同樣ニ明カナ陰翳ナドヲ認メナイ。血液ノワッセルマン氏反應ハ陰性デ、結核補體合反應ガ中等度陽性デアル。

特殊治療ヲ行フ事約三ケ月、其ノ間ニ胃腸障碍モ去ツテ食慾モ旺盛トナリ、嘗テ十二貫ヲ出デナカツタ體重ガ十四貫餘ニ增加シテ運動後ト雖モ發熱スルヤウナ事ハ無クナツタ。治療後約一ケ月デ血液檢査ヲ行ツタガ、結核補體結合反應ハ

全然陰性デハナカツタガ、治療前ニ比較スレバ著明ニ減ジテ居ツタ。

第二例、[redacted]　三十二歳　♀

患者十六歳ノ時ニ伯母ガ肺結核デアツタ。其ノ家ヲ時々訪問シテ居タコトガアツタ。夫レ以外ニハ家族史中ニハ何等特記スル程ノコトガナイ。

患者ハ生來頑健デハナカツタガ著患モナイ。近來一寸シタ作業後ニモ容易ニ疲勞スル、忍耐力ガナイ。運動スルト却ツテ腹ノ具合ガ惡クテ食慾ガ減ズル傾向デアル。仰臥シテ安靜ヲ守ルト、一番氣分モヨクテ腹モ空イテ來ル。唯疲レ易イト云フ事ガ患者ノ主訴デ、其他ニハ特別ナ自覺症狀ガナイ。

患者ノ榮養ハ良好ノ方デアル。體軀ハ稍〻長狹デハアルガ肺癆型ナド、云フ方デハナイ。甲狀腺部ガ稍〻肥大シテ居ルガグレーフ氏ヤメービー氏ノ症狀ハナイ。指尖ノ震顫ヤ兎眼ノ徵候モ無イ。

胸部ノ理學的所見トシテハ、左肺尖部ニ稀レニ析裂音(?)ヲ疑フヤウナモノヲ聽取スルコトガアル。無熱デ脈搏ハ六五乃至七二デアル。「レントゲン」像ニモ著變ヲ認メナイ。「ヘモグロビン」量ガ六九%、赤血球數三九二・〇〇〇〇、輕度ノ單核白血球增多症ガアル。血液ノワ氏反應ガ陰性デ、結核補體結合反應ガ弱陽性デアル。本患者ハ輕度ノ貧血狀態ヲ呈シテ居ルガ、是ハ潛在性結核ノ慢性的中毒ノ爲デ、疲勞感モ亦同樣ノ理デアルト思ハレル。

特殊療法ヲ施スコト數月ニシテ疲勞感モ次第ニ消失シテ體重モ增加シテ血色素量モ赤血球數モ普通以上ニ增加シタ。治療後結核補體結合反應ガ陰性トナツタ。

第三例。[redacted]、二十九歳　♀

家族史ニハ特記ス可キ事ガナイ。患者ガ十八歳頃學友ニ肺結核患者ガアツテ看護ヲシタコトガアル。二三年以來上腹部下腹部或ハ肩胛部、頸部等ニ不定ノ放散性ノ刺痛ヲ感ズル。咳嗽モ喀痰モナイガ、體重ガ一向增加シナイ。

胸部ノ理學的所見トシテハ兩肺尖部ニ乾性肋膜炎ノ摩擦音ヲ聽取スル以外ニハ變化ガナイ。「レントゲン」檢査ニヨルト左肺尖ガ右肺尖ニ比較シテ稍〻陰翳ガ濃厚デアル。體溫ハ普通デアル。血液檢査ノ結果ハワッセルマン氏反應ガ陰性デ、

結核補體結合反應ハ陽性デアッタ。

特殊治療ヲ行ッタガ、當初ハ却ッテ胸部ノ疼痛ガ增シタガ次第ニ消失シテ體重モ增加スルニ至ッタ。治療後補體結合反應ガ全ク陰性デハナカッタガ治療ノ前後ヲ比較スルト非常ニ減少シテ居ッタ。

第四例。[redacted]　三十八歳　♂

患者ハ音樂家デアル。二十七、八歳ノ頃當時師事シテ居ッタ音樂ノ先生ガ肺結核デアッタ。尙ホ患者ノ親友ニモ二、三名肺尖加答兒或ハ肋膜炎ナドノ診斷ヲ受ケタモノガアッテ彼等ト久シク起臥ヲ共ニシテ居ッタ。家族史中ニハ別ニ結核ニ對スル素因ヲ認メナイ。數年來家事上ノ事デ心身ヲ勞シタコトモ原因トナッテ居ルガ、甚ダシク神經ガ敏感ニナッテ、些細ノ事ニモ怒リ易クナッタ。大正十四年頃カラ腰椎ノ邊ニ痛ガアルノデ醫師ノ診斷ヲ乞ッタ處ガ神經衰弱ダト云ハレタ。大正十五年夏、寒冒ニ罹ッテ完全ニ下熱スル迄ニハ約二十日計リ經過シタ。夫レ以來、益々疲勞感ガ增加シテ仕事ニ對シテ忍耐力ガナイ。始終風引キ氣味デハアルガ熱ハ無イ。食物嚥下ノ際ニ胸骨ノ中央部位ニ相當シテ食物ガ食道ニ停滯シタヤウデ微痛ヲ感ズルコトガ屢々デアル。咳嗽、喀痰ハナイガ馨咳ガアル。患者ノ榮養ハ中等度デ體軀モ先ヅ尋常デアル。胸部ノ理學的所見トシテハ、右肺尖ガ左ニ比較シテ輕短短縮音ヲ示シ呼吸音ガ微弱デアル以外ニハ變化ヲ認メナイ。

「レントゲン」檢査上デハ右肺尖ノ方ガ陰翳ガ濃厚デアル。肺門淋巴腺ガ少シク腫脹シテ居ル。心臟ガ右ニ稍々肥大シテ居ル事ハ毎年脚氣ニ罹ッタ爲デアラウ、血液檢査ノ結果ワッセルマン氏反應ガ陰性デアルガ、結核補體結合反應ハ弱陽性デアル。本患者ニハ食餌衞生療法ノ一般ヲ命ズルト共ニ、患者ハ非常ニ神經過敏デ事々ニ取越苦勞ヲシテ惱ムデ居ルカラ、結核ニ關シテ一通リノ病理ヲ說キ聞カセタ。患者ハ喜々トシテ治療ニ專念スルヤウニナッタ。特殊治療ヲ行ッタガ既ニ二、三回ノ注射後嚥下痛ヤ腰痛ナドガ消退シテ體重ヤ食慾モ次第ニ增加シテ神經性ノ諸症狀ガ去ッテ甚ダ感謝シテ居ッタ。

第六章　腺病型或ハ滲出型體質ヲ有スル小兒ニ於ケル治療成績

腺病型或ハ滲出型體質ト稱セラレルモノハ多クノ場合ニ小兒期ニ於ケル潛伏性結核ヲ意味スルモノデアルガ、斯カル患者ヲ十數例治療シタガ、殆ンド悉ク神效ガアツテ二三回目ノ注射カラ著明ニ皮膚ノ色澤ガ可良ニナル、肥大シタ扁桃腺腫ガ次第ニ萎縮スル、榮養ガ頗ル良好トナツテ從來風ヲ引キ易カツタリ氣管枝炎ヲ起シ易カツタリシタ體質ガ改造セラレテ、二三ケ月ヲ經過スル內ニ殆ンド別人ノヤウニナルノガ常デアル。

蓋シ、本免疫元ニヨル治療トシテ最モ興味アリテ且ツ又最モ著效ヲ現ハスモノトシテハ斯カル體質ニアル小兒結核デアルト信ジテ居ル。是等ニ關シテハ既ニ清水博士[3]ノ御報告モアル。

第七章　肺結核以外ノ結核性疾患ニ對スル「コガミゲン」ノ治療成績

外科的結核ニモ相當ノ效果ヲ認メルヤウデアルガ例數僅少デ確カニ斷言ガ出來難イ。腎臟結核、喉頭結核、腸結核ナドノ場合ニハ餘程微量ヲ愼重ニ使用シナイト却ツテ有害ナ結果ヲ齎ラス事ガ多イ、東京市療養所收容中ノ肺結核ヲ合併セル喉頭結核患者十數例ニ對シテ實驗ヲ試ミタガ僅カニ一例ノミガ甚ダ輕快シタガ其他ノ者ハ悉ク不成績デアツタ。勿論同療養所ニ收容セラレテ居ル喉頭結核患者ハ、殆ンド悉ク喉頭竝ニ肺共ニ變化ノ著明廣汎ナ末期重症者ノミデアルカラ、斯カル患者ニ對シテ企動的特殊治療法ナドヲ試ミルト云フ事ハ、既ニ甚ダシク間違ツタ問題デ、宛モ死馬ニ鞭打ツヤウナ事デアツタカモ知レナイガ、兎モ角モ、本免疫元(結核特殊治療劑ノ大多數ハ同樣デアルガ)モ喉頭竝ニ腸ニ於ケル病竈ニ對シテハ特別ニ親和力ガ强クテ、意外ノ强反應ヲ惹キ起シテ惡イ結果ヲ生ズルコトノアルノガ事實デアルカラ警戒ス可キコトデアルト思フ。

眼結核ヤ其他結核以外ノ疾患ニ就イテノ治療成績ハ高橋君ノ別報ガアリマスカラ茲ニハ詳細ナコトヲ省略イタシマシタ。

第八章　「コガミゲン」並ニ其ノ注射ニ關スル注意事項

(一)、「コガミゲン」ノ有效期間

本免疫元ハ「アルカリ」卵黄水中ニテ浸出シタ耐熱性結核菌體内毒素ヲ主トシタモノデ、太陽光線ノ直射、攝氏百度ノ温熱及ビ冰點下六度ノ冷却等ニ長日月間處置スルモ補體結合性ヲ標準トシタ能働力測定上ニ於テハ毫末モ差違ヲ認メナイカラ、若シ之ヲ有溫ニ於テ〇・五%ノ比ニ石炭酸ヲ溶解セシメテ貯藏スルモノトスレバ、其ノ效力ハ尠クトモ約五ヶ年位ハ不變デアルト信ズル。

(二)、「コガミゲン」ノ注射部位ト注射量

注射部位ハ上膊外側ヲ撰ビ、酒精ニテ清拭消毒ヲ施セバ充分デアル。注射ハ凡ベテ皮下ニ行フ。注射量ハ病症ニ應ジテ臨機應變デ一定ノ規則ヲ設ケルコトハ出來難イガ大體ノ規則トシテハ。

(a)現示性ノ著明ナ肺結核ノ場合。

百萬倍稀釋液(K.G.)〇・一瓩カラ初メテ特別ノ支障ノ無イ限リハ次ノ如キ形式デ增量スル。

第一週、	第二週、	第三週、	第四週、	第五週、	第六週、	第七週、	第八週、	第九週
K.G. 0.1	K.G. 0.2	K.G. 0.4	K·G. 0.8	K.G. 1.0	K.F. 0.2	K.F. 0.4	K.F. 0.8	K.F. 1.0

順次右ノ形式ニ從ッテ第十週目カラハK.E(一萬倍稀釋液)〇・一瓩ヲ注射シ、各週毎ニ所定ノ法ニ依リ次第ニ增量シテ普通十倍液一・〇瓩ニ至ッテ第一期ノ治療ヲ終ヘ、次イデ一般刺戟療法ノ法則ニ從ッテ、一ケ月乃至二ケ月半ノ休息期ヲ設ケ、尙ホ治療ノ必要ヲ認ムル場合ハ、更ニ初量ヨリ既述ノ如キ增進法ヲ以テ第二期ノ治療ニ引キ移ルモノデアル。

(b)肺結核早期及ビ潛在性結核

K.F.乃至K.E.ヨリ所定ノ法ニ依リ增量ヲ施ス可シ

(c)滲出型體質及ビ眼結核等。
E.K.ヨリ初メテ增量ス。
(D)喉頭結核及ビ腸結核。
K.G.ヨリ極メテ徐々ニ增量ス。

注射間隔ハ凡ベテ一週日間トスルモ活動性結核以外ノ疾患ニ應用スル場合ニハ、臨機應變ニ適宜ノ間隔ヲ選定スルモ可ナリ。本免疫元ハ注射ニヨツテ直接發熱反應ヲ惹キ起スコト殆ドナキガ故ニ、注射ヲ增量スル目標ハ一般狀態竝ニ體重デアツテ、體重ノ減ズル場合ニハ注射量ヲ加減シテ濫リニ增量セザルヲ可トスル。體重ガ次第ニ減ジテ毫モ增加ヲ示サザルモノハ本治療法ノ適應シナイ場合デアルカラ中止ス可キモノデアル。

(三)適應ト禁忌。

一般結核性疾患ハ適應症デ有熱患者ト雖モ別ニ顧慮スルヲ要シナイ。其他氣管枝喘息、腺病質小兒、化膿性炎症特ニ耳漏ノ如キモノニハ適應セラル可キモノデ特ニ禁忌トスルモノハ急性腎臟炎、强度ノ神經衰弱症及ビ「ヒステリー」ノ如キモノデアル。

綜括

(一)余等ノ使用セル結核治療用免疫元ハ、既報補體結合用免疫元ノ製出法ニ從ヒ、結核菌ノ多株培養ヲ企テ、シヤンベラン濾過管L_2ニ依リ、結核菌體ヲ完全ニ除去シタル濾液デ、之ニ防腐貯藏ノ便宜上、純石炭酸ヲ〇・五%ノ比ニ溶解セシメタモノデアル。

(二)余等ノ使用セル結核治療用免疫元ヲ「コガミゲン」ト命名シ、其ノ性狀ハ弱「アルカリ」性乃至兩性反應ヲ呈シ、强度ニ蛋白石濁ヲ帶ビ、黃褐色ヲ示ス。貯藏久シキニ亙レバ管底ニ白色ノ微粒子ヲ沈澱スルコトアルモ、效力ニハ變化ガナイ。其ノ化學的主成分ハ、培養液竝ニ結核菌體內及ビ體外毒素ニ屬スル蛋白乃至蛋白類脂體デアル。

本免疫元ハ補體結合性能動力ノ測定、種々ナル物理化學的變化ニ對スル影響及ビ從來久シク臨牀上ニ應用シメル結果等ヨク推論シテ、其ノ效力ハ尠クトモ數ケ年間ハ不變デアル。

(三)余等ノ「アンチゲン」ハ單ニ試驗管内ニ於ケル補體結合反應ニ對シテ强力ナル「アンチゲン」性ヲ示スニ止マラズ、試驗動物ニ之ヲ注射スルモ、多少ニ拘ラズ、補體結合性抗體ヲ產出スルモノニシテ、其ノ抗體單位ハ家兎ニ於テ四〇乃至五〇〇倍、海猪ニテハ一〇乃至二〇倍程度デアル。

本免疫元ハ、健康家兎及ビ海猪等ニ對シテハ絕對ニ過敏性反應ヲ惹起スルコトガナイ、又毒性力モ殆ンド認メラレナイ。結核ニ罹患セシメタル家兎及ビ海猪等ニ對シテモ、本免元ノ大量ヲ注射スルモ、殆ンド何等危險ナル症狀ヲ呈スルコトナク、唯僅カニ試驗動物ノ體重ノ減少ヲ認ムルニ過ギナイ。

(四)「コガミゲン」ヲ結核罹患動物ニ對シテ注射シタル場合ニ、其ノ全經過或ハ病變等ニ對シテ如何ナル影響ヲ及ボスカハ、結核菌接種後注射ヲ開始スル迄ノ間隔、注射量、注射ノ間隔等ノ相違ニ依ッテ甚ダシク結果ヲ異ニスルモノデアルガ、其ノ一定量以内ニテハ多クノ場合ニ、結核罹患動物ニ對シテ結核菌ノ發育ヲ抑制シテ病竈ノ擴大ヲ防ギ、或ハ治癒的效果ヲ示スモノデアル。又本免疫元ヲ經口的ニ與フルモ、試驗動物ハ對照動物ヨリモ大多數ニ於テ生存期間ガ長イ。

(五)本免疫元ヲ豫防的ノ意味ニ使用スルモ、對照動物ト試驗動物ノ間ニ殆ンド差違ヲ認メナイカラ、純然タル豫防的價値カラ云ヘバ其ノ效力ハ極メテ薄弱ナモノデアル。

(六)本免疫元ヲ以テ治療セル臨牀上著明ナ活動性現示性肺結核患者四五例中、第一期患者ノ治癒率五七・〇%、輕快率四三・〇%、第二期患者ノ治癒率三・一〇%、輕快率三八・〇%不變率二三・〇%、增惡率八・〇%、第三期患者ノ治癒率四・〇%、輕快率二八・〇%、不變率五六・〇%增惡率一二・〇%ヲ示シテ居ル。

(七)本免疫元ノ注射ヲ肺結核患者ニ持續スレバ發熱、喀痰、咳嗽、盜汗等ノ諸症狀ニ對シテ好影響ヲ認ムルコトガ多イ。就中最モ顯著ナルハ殆ド常ニ體重ノ增加ヲ示スコトデアル。

(八)本免疫元注射ニ由リ大多數ノ場合ニ於テ喀痰內彈力纖維ガ異狀ニ減少乃至消失スルニ至リ、赤血球沈降速度モ著明ニ遲延セラレ、余等ノK.A.反應ニ於テモ凝析反應度ガ減弱スル。是等ノ諸實驗ヲ綜合シテ本免疫元ノ注射ハ、結核患者ノ豫後ヲ佳良ニ導ク作用アルモノト推測出來ル。

(九)本免疫元注射ニ由ツテ既存ノ補體結合性抗體ハ次第ニ減少シテ遂ニ消失スルニ至ルガ、是ハ臨牀的ノ治癒ヲ意味スルモノデアル。喰菌現象ハ注射ニ依ツテ二倍乃至五倍位ニ昂騰スル。而シテ一旦注射ニ依ツテ獲得セラレタ喰燼機能ノ亢進ハ、注射ヲ中止スルモ長時間其ノ狀態ヲ維持シテ居ルノガ常デアル。本免疫元注射ニ依ツテハ著明ナ陰性期ノ出現ハナイ。

(一〇)本免疫元注射ニ由ツテ大多數ノ患者ニ於テ著明ナ血色素量並ニ赤血球數ノ增加ヲ認メタ。

(一一)本免疫元注射ニ由ツテ「レントゲン」像ニ好影響アリト認メタモノガ多イ。

(一二)本免疫元ヲ結核患者ニ注射スレバ舊「ツベルクリン」ニ對スル皮膚ノ「アレルギー」狀態ガ減弱シテ遂ニ陽性「アレルギー」ノ狀態ニ達スルモノガ屢〻認メラレル。

(一三)本免疫元ノ就中偉效ヲ奏スルモノハ、潛在性結核、結核萌芽期、早期肺結核・腺病質・滲出性體質ノモノ等デアツテ、其ノ治效眞ニ驚嘆ス可キ程度ノモノデアル。

(一四)腸及ビ喉頭結核ノ重症ノ者ニ對シテハ餘程眞重ニ使用シナイト却ツテ有害ノ場合ガ多イ。

稿ヲ終ルニ當ミテ、東京市療養所長田澤博士其他醫局ノ先輩、同僚諸兄ノ甚深ナ指導ト援助ニ對シテ感鳴ノ意ヲ表ハシテ置キマス。

(一九二八、九、三〇、丁稿)

文獻

1) 濱上, 高橋, 佐々木, 結核, 第四卷, 第七號, 大正十五年七月. 2) 佐藤運醫, 第十一回醫學專門學校分會講演集, 昭和三年一月).
3) 清水博士, 診斷ト治療, (昭和三年二月).

社會醫學並統計

東京市療養所ニ於ケル各年月別入所數及死亡數（百分率ハ在所患者數ニ對スルモノ）

年	月次	在所者數 前月ヨリ越人員	新入所	計	死亡數	百分率
大正九年	六月		七五	七五	六	八・〇
	七月	六九	五六	一二五	一七	一三・〇
	八月	一〇二	四六	一四八	一四	九・四
	九月	一二三	七三	一九六	二八	一四・三
	十月	一五八	一一四	二七二	四〇	一四・七
	十一月	二二八	九二	三二〇	四一	一二・八
	十二月	二七三	七三	三四六	四八	一三・八
計			五二九		一九四	三六・六
大正十年	一月	二八三	三六	三一九	三七	一一・五
	二月	二六八	五二	三二〇	三三	一〇・三
	三月	二八〇	七五	三五五	四〇	一一・二
	四月	二九九	六〇	三五九	四〇	一一・一
	五月	三一一	七九	三九〇	五〇	一二・八
	六月	三三四	一〇一	四三五	四八	一一・〇
	七月	三六七	八〇	四四七	六一	一三・六
	八月	三六七	九九	四六六	五四	一一・五
	九月	三八六	五三	四三九	六九	一五・七
	十月	三四八	六一	四〇九	三八	九・二
	十一月	三五〇	九九	四四九	四八	一〇・六
	十二月	二八三	八七五	一、一五八	五八一	五〇・一
計		前年ヨリ越及本年入所者計				
大正十一年	一月	三七七	七五	四五二	四八	一〇・五
	二月	三九一	七二	四六三	四一	八・八
	三月	四〇八	五八	四六六	五〇	一〇・七
	四月	四〇〇	七三	四七三	四九	一〇・三
	五月	三九八	一二八	五二六	六九	一三・一
	六月	四二四	八七	五一一	五六	一〇・九
	七月	四四六	九四	五四〇	七〇	一二・九

年	月	前年ヨリ越シ者及本年入所者計	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
一	八		四四五	一〇七	五五二	六九	一二・四	二	六四三	七二〇	八〇	七二三	六〇	八三・三	大正二年	二	六四〇	一六八	八〇八	六三	七・八	大正三年	二	六四三
	九		四六三	九六	五五九	六六	一一・八		四四〇	一〇五	五四五	九一	九・五			六四〇	一六八	八〇八	六三	七・八		六四〇	一六八	八〇八
	十		四六四	八一	五四五	五五・五	九・九		四六七	四七	九・三					七〇四	一三一	八三八	七四	八・八		七〇四	一三一	八三八
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一〇五	五四五	五一	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
二	一		四六七	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	一〇九	七八三	七五	九・六		六六三	一二〇	一〇九	七八三	七五	九・六	六六三	一二〇	一〇九
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一二	七九〇	七四	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
三	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
四	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
五	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
六	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
七	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
八	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
九	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
一〇	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
一一	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
一二	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九	八一三
	五		四五四	九六	五五〇	五七	一〇・三		四五四	一二一	八二四	七四	九・〇			七〇三	一二一	八二四	七四	九・〇		七〇三	一二一	八二四
	六		四五九	七八	五三七	四九	九・一		四六二四	一一九	八〇四	七四	九・四			六二四	一一九	八〇四	七四	九・四		六二四	一一九	八〇四
十	七		四六八	七七	五四五	六〇	一一・〇		四六三	一一〇	七九〇	九二	一一・六			六八〇	一一〇	七九〇	九二	一一・六		六八〇	一一〇	七九〇
	八		四五三	七三	五五六	四五	八・五		四六六三	一二〇	七八三	七五	九・一			七〇四	一二〇	七八三	七五	九・一		七〇四	一二〇	七八三
	九		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四六二	一一九	七八二	七五	九・六			六七三	一一九	七八二	七五	九・六		六七三	一一九	七八二
	十		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四六七	一三九	八〇九	七五	九・三			六七〇	一三九	八〇九	七五	九・三		六七〇	一三九	八〇九
	十一		四六七	四七	五一四	三七	七・一		四六七	一二〇	七九〇	七四	九・三			七〇四	一三〇	八四三	七八	九・三		七〇四	一三〇	八四三
一三	一		四六六三	五九	五二二	四七	九・〇		四六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一			六六三	一二〇	七八三	七九	一〇・一		六六三	一二〇	七八三
	二		四六二	五八	五二〇	四五	八・六		四六七	一一〇	七八二	七五	九・六			六七三	一一〇	七八二	七五	九・六		六七三	一一〇	七八二
	三		四六七	八一	五四八	四四	八・〇		四五四	一一九	七九〇	七五	九・三			六七〇	一一九	七九〇	七五	九・三		六七〇	一一九	七九〇
	四		四五四	七九	五三三	四一	七・六		四五四	一一九	八一三	七六	九・三			六九四	一一九	八一三	七六	九・三		六九四	一一九

年	月				
四十九	月	七一三	一四七	八六〇	八一	九・四
四十	月	七四〇	一五九	八九九	一〇三	一一・五
十一	月	七四四	一〇二	八四六	七七	九・一
十二	月	七三二	一四二	八七四	一〇〇	一一・四
前年ヨリ越及本年入所者計		七二四	一四・八	一二・二〇五	九六八	四・三九
大正一	月	七三五	一〇〇	八三五	六三	七・五
二	月	七二八	一二二	八五〇	六三	七・四
三	月	七三七	一二二	八五九	八一	九・四
四	月	七五二	一一〇	八六二	七八	九・〇
十五	月	七四七	一〇三	八五〇	七二	八・四
昭和六	月	七四七	八六	八三三	七二	八・六
七	月	七四六	一一五	八六一	八八	一〇・二
八	月	七四七	九三	八四〇	七〇	八・三
九	月	七四五	二二一	九六六	八一	八・三
元年十	月	七九七	一三八	九三五	九一	九・七
十	月	八〇七	一〇〇	九〇七	八二	九・〇

年	月				
十二	月	八〇五	九六	九〇一	六五	七・二
前年ヨリ越及本年入所者計		七三五一、四〇六二、一四一九〇六				四二・三
昭和一	月	八〇六	七三	八七九	五四	六・一
二	月	八〇六	一〇〇	九〇六	六〇	六・六
三	月	七九二	一一二	九〇四	七八	八・六
四	月	七九一	一一二	九〇三	八二	九・〇
五	月	七九七	一〇六	九〇三	七三	八・〇
六	月	七九七	一一三	九一二	七四	八・一
七	月	八〇六	一〇一	九〇七	七五	八・二
二八	月	七九八	一〇一	八九九	八一	九・〇
九	月	八〇三	八六	八八九	五四	六・〇
昭和十年	月	八〇三	一一六	九一五	六四	六・九
十一	月	八〇四	七七	八八一	五六	六・三
十二	月	七九九	八〇	八七九	六三	七・一
前年ヨリ越及本年入所者計		八〇六一、一七三一、九七九八一四				四一・一

抄録

結核專門雜誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose.
69. Band, 1. Heft, 1928

1、部位腺ヲ包含セル接種性狼瘡ノ一例

Walther Gerlinger.

皮膚ノ結核初期變化群ハ臨牀的ニハ內臟ニ於ケルト同ジ法則ニ從ツテ經過ス。皮膚ノ初期變化群ハ病菌ノ浸入セル個所ニ於ケル初期潰瘍及ビ之レヨリモ範圍並ニ活動性强大ナル部位淋巴腺ノ病變トヨリ成ル、而シテコノ腺ハ二三週間後ニハ硬固ナル乾酪變性或ハ軟化ヲ起シ且ツ同時ニ起ル病竈周圍性腺周圍炎ノ爲ニ穿孔スルニ至ル。著者ハカクノ如キ初期變化群ト認ムベキ接種性結核ノ一例ニ於テソノ初期潰瘍ノ存在セル間ニ之ニ隣接シテ眞正狼瘡ノ發生シタルヲ報告セリ、而シテ血液ニヨル「メクスターゼ」ガ證明セラレズ且ツソノ第一期ガ瘢痕形成ニテ終息セル場合卽チ著者ノ報告セルガ如キ狼瘡ハ之レヲ初期變化群ニ屬スルモノト看做スベク、從ツテコノ例ハ結核ノ第一期中ニ認メラレタル狼瘡トシテ最初ノモノナリト。

（柴田抄）

2、成人結核ノ初期及經過中肺尖部以外ニ現ハル、孤在性病竈ノ診斷豫後治療ニ就テ

J. E. Kayer-Petersen.

肺尖以外ノ部位ヨリ初マレル成人結核二十一例ヲ報告セリ、ソノ大部分ハ臨牀的變化僅少ナル爲「レントゲン」ニヨリ診斷ヲ下セリ。豫後ハ多クノ場合良好ナルガ如キモ廣汎ナル第三期肺痨ノ發生スル事アルハ疑ナキ事實ナリ。肺尖結核ガ鎖骨下病竈ヨリ生ズルハ意義深シ。

是等ノ初期浸潤或ハ初期病竈ハ再感染ニヨルモノト認メラル、而シテ其再感染ハ內因的ニモ又外因的ニモ起リ多數ノモノハ第二次「アレルギー」ノ時期ニ發現セリ。ランケ氏病期ノ時間的順序ハ常ニ正確ニ進展スルモノニアラズ。初期病竈ハ瘢痕トナリ又ハ融合、播種、娘病竈ノ形成ヲ起ス。後ノ經過中ニ起ル再發性遲發病竈モ亦同樣ノ進展ヲ示スモノナリ。治療法トシテハ總テノ刺戟ヲ避クルコト、二ケ月以內ニ消退セザルモノ若シクハ病竈軟化セルモノニハ氣胸療法ヲ行フベク初期ニ於ケル診斷、治療ヲ肝要トス。

（柴田抄）

3、學齡時ニ於ケル早期肺臟石灰病竈、殊ニ早期第二次肺尖病竈ニ就テ

Kurt Nitzel.

早期ノ肺石灰沈著及ビ Ghon 氏肺尖病竈ノ頻度ニ關シテノ數字的基礎ハ未ダ之レナシ。著者ガ學校兒童ヲ連續的ニ檢シタル所ニヨレバ男兒一一二五名中一八名（一・七%）女兒一二三〇名中二七名（二・二%）合計二三五五名中一・九%ニ肺尖ノ病竈ヲ認メ、又〇・一%ニ早期散在性石灰化病竈ヲ認メタリ。是等病竈ノ數（一乃至數個）大サ（黍乃至櫻實大）形（圓形又ハ不規則）等ハ一定セズ然レドモ境界ハ鮮明ニシテ陰影ノ濃度ハ均等ナルヲ例トスルガ如シ、特異ナルハ大ナル病竈ノ周圍ニ石灰細末ノ撒布セルヲ見ル事ナリ。

早期肺炎病竈ハ單獨ニ又ハ初期變化群及ビ他ノ肺臓病變或ハ肺以外ノ病竈ト合併シテ發見セラル、之ニ對シ散在性石灰病竈ハ著者ノ例ニテハ唯初期變化群ト合併セルモノヽミナリ。發生ヨリ論ズレバ肺尖部病竈及ビ早期散在性石灰病竈ハ第二期ノ初メニ於テ第一期ニ連續シ局所及ビ一般的「アレルギー」ノ特性ヲ有スル時期ニ起ル「ヘマトゲン」ノ病竈ト見ルベシ。多クノ例ニテハ Pohl 氏病竈ト Zinnen Hilschmann 氏ノ肺尖病竈トハ同一ナリ。早期肺尖病竈ト肺癆發生トノ間ノ直接關係ハ著者ノ例ニ於テモ否定セラレ、寧ロ前者ハ原則トシテ後發スル肺病變トハ無關係ノモノナリト考ヘラル。

（柴田抄）

4、「セメント」粉末ヲ吸引セル肺臓ニ就テ

F. Schadt.

「セメント」ノ粉末ヲ年餘ニ亘リテ吸入スル時ハ慢性「カタル」氣管枝炎及ビ肺門部ノ變化ヲ伴フ氣腫ヲ惹起ス。而シテ十數年間工場ニ作業スル時初メテ臨牀上特有ナル「セメント」沈著肺トナル。肺ノ「セメント」沈著ハ石工肺炎ヨリモ無害ナリ、保健上缺點ナキ「セメント」工場ニ於テハソノ勞働者ハ長年月ノ間組織ノ障碍ヲ受クル事ナシ、又「セメント」粉末ノ吸入ハ新ラシキ結核罹病ノ素因トナル事ナク且ツ結核ニ對スル防禦力ヲ破ル事ナシ。

（柴田抄）

5、交感神經ト結核治療

Ladislaus Heumann.

交感神經ノ刺戟狀態ヲ緩和スル作用ヲ有スル藥劑ハ肺結核ノ對症療法トシテ卓越セル效果ヲ現ハスモノナリトノ見解ヨリ著者ハ麥角製劑（Cynergen）ヲ推奬セリ。コノ療法ノ適應症ハ衰弱及ビ高度ノ體重減少ノ場合ニシテ之レニヨリテ一般狀態ノ恢復體重ノ增加ヲ見ル、尙盜汗ニ對シテハ「アトロピン」ト併用シテ持續的效果アリ。而シテ何等有害ナル副作用ヲ見ズト。

（柴田抄）

6、結核患者ノ血清中「アルブミン」、「グロブリン」ノ對比、血球沈降速度及ビヒルケ氏皮膚反應ノ比較觀察

F. Scheuren.

血清ノ「アルブミン」「グロブリン」ノ對比關係ヲ「レフラクトメーター」及ビ稠度計ヲ用ヒテ測定スル Kjeldahl-Kohler ノ方法ニ就キソノ原理並ニ術式ヲ記載シ、次デ肺結核患者一三二例ヲ臨牀的ニ六群ニ分チ各群ニ就テ血清蛋白ノ總量及ビ「アルブミン」「グロブリン」ノ比ヲ測定シ之レヲ表示セリ。蛋白體ノ總量ハ廣キ範圍内ノ變動アリ從テ臨牀上大ナル意義ヲ置クコト能ハズ、血清「アルブミン」ト「グロブリン」トノ比ハ病竈ノ廣サ融合ノ程度及ビ疾患ノ活動性ノ度合ニ關係ス、然レトモ之レヲ以テ精密ナル臨牀的診察ニ代用セシムルコトハ不可能ニシテ單ニ全臨牀所見ヲ完全ナラシムルモノタルニ過ギズ、而シテ之レト血球沈降速度トノ間ニハ甚ダシキ相似ノ關係アリ。連續セル極査ニヨルニ療養所療法ヲ行フコト短時日即チ四ケ月以内ニ於テハ血清蛋白所見ハ著ルシク且ツ規則的ナル變化ヲ呈スルコトナシ、然ルニヒルケ氏反應ハ活動性ニシテ進行型ナラザルモノハ總テ陽性度強盛トナル即チ特異性抵抗力ノ增大ヲ示シ臨牀所見ト平行スト。

（柴田抄）

7、結核患者ニ於テ非特異性刺戟ノ毛細管及ビ

白血球像ニ及ボス作用如何ニ關スル知見

Reinhard Braun.

結核患者ニ非特異性ノ刺戟劑ヲ非經口的ニ與ヘテ爪溝ノ小血管ニ起ル反應ヲ檢査セリ、著者ハ「アウロフォス」「リパトレン」「子オサルバルサン」「クロー・ルカルチウム」等ノ少量ヲ以テシテハ毛細管狀態ニ何等認ムベキ變化ヲ起サシムルコト能ハザリキ。次ニ白血球像ノ變化ニ就テハ「アウロフォス」注射後ハ中性白血球ノ增加、左方屈位、淋巴球ノ減少ヲ見、「IG」色素工場二九四九號製劑ニテハ一過性ノ「エオジン」嗜好細胞ノ增加アリ、「リパトレン」ハ血球像ニ特別ノ變化ヲ起サズ、「カルチウム」ハ盛ンニ「エオジノフィリー」ヲ惹起セシメ、「ヲンガン」ハ何等ノ作用ナシト。

（柴田抄）

8、結核患者ノ肺臟ノ鑛物性成分及ビ組織反應

Rudolf Schaefer.

結核患者ノ肺臟ハ健康ノモノニ比シ甚ダシク水分多ク之レニ反比例シテ灰分ニ乏シクシテ鑛物質過少ノ狀態ニアリ、殊ニ「カリウム」及ビ「ナトリウム」ノ鹽酸鹽ノ含量減少ス、慢性肺結核ニアリテハ肺臟ノ「カルチウム」含有量ハ著シク增加セリ。健常「モルモット」肺臟ノ酸性及ビ鹽基性原子ノ總量ハ肝、腎、筋肉等ノ其レヨリモ少ナシ、死後可及的速カニ分析試驗ヲ行ヘバ、他ノ組織ニアリテハ酸性原子ト「アルカリ」性原子トハ殆ド同數ナルニ肺臟ニテハ「アルカリ」性ノ方ガ酸性ノモノ、三、五倍丈ケ多シ。而シテコノ關係ハ結核「モルモット」ノ肺臟ニ於テ特ニ著シク「アルカリ」原子ハ酸性原子ノ七倍ニ達ス。尙又同肺臟ニ於ケル酸性及ビ「アルカリ」性原子ノ合計ハ健康ノモノヨリモ明カニ減少セリ。喀痰ノ灰分、及ビ食鹽含有量竝ニ反應ハ日ニヨリテ甚ダシク變動スルガ故ニ正鵠ヲ得ル爲ニハ連續檢査ヲ必要トス。コノ豫備條件ヲ考慮スル時ハ喀痰ノ灰分及ビ食鹽ハ喀痰ノ一日全量ニハ關係ナク增減ス、卽チ喀痰ノ稀薄或ハ膿密等ニハ意味ナク分泌作用ノ變化ニヨルモノナルヲ示ス、灰分ノ曲線ト食鹽ノ曲線トハ同ジ意味ヲ以テ上下スレドモ平行セズ、後者ハ前者ヨリモ高度ナル變動ヲ示セリ。

喀痰ノ反應ハ甚ダ強ク動搖シ定律ヲ認メ難シ、著者ノ揭ゲタル喀痰檢査ノ成績ニヨルニ食鹽ヲ減ゼルゲルソン氏食餌ハ喀痰ノ食鹽量ニ一定ノ影響ヲ與ヘズ。

（柴田抄）

9、潛伏肺結核ニ於ケル「インフルエンザ」ノ好發部位及ビソノ「レントゲン」像ニ就テ

Felix Baum.

「インフルエンザ」ニ續發シテ潛伏性肺結核ノ再燃セルヲ「レントゲン」像ニテ證明シ得ル例三個ヲ記載セリ。コノ三例ニ於テハ「インフルエンザ」ハ重症ナリシモ之レニ續ケル結核再發ハ輕症ナリキ。潛狀性ノ肺結核病竈ハ他ノ肺感染ニ對シテ抵抗力減少部位トナル。然レドモ肺感染ハ肺結核ノ原因トハナラズ潛狀結核再發ノ遇然的動機トナルモノト見做スベシト。（柴田抄）

10、肺臟下緣ノ局所的打診法ニ關スル注意

Emerich Schill.

肺臟下緣ノ境界ヲ打診ニテ測定シ之レヲ肋骨ノ高サヲ以テ現ハス時ハ肺氣腫、萎縮或ハ脊柱彎曲症等ニテ左右胸廓ノ不均齊アル場合屢〻錯誤ヲ生ズル

ず故ニ注意ヲ要ス、斯クノ如キ場合ニハ左右兩肺下緣ノ高低ノ差ヲ横指數又ハ糎ヲ以テ示スヲ可トスト。

（柴田抄）

Zeiltschrift für Tuberkulose Band 51, Heft, 1, 1928.

11、初期浸潤ニ關スル研究

H. Braeuning.

結核撲滅上ノ最大缺陷ハ結核ノ大多數ガ發見セラルヽ事遲ク從ヒテ治療及ビ衛生的施行ノ時期ヲ失シ居ル事ナリ。著者ガ本研究ヲナス目的モ亦コノ缺陷ノ因ツテ來ル所ヲ究メ、如何ニセバ夫レヲ除キ得ルカノ問題ニ解法ヲ與ヘントスルモノナリ。著者ハ先ヅ成人肺癆ノ發生ニ關スル最近ノ業績ヨリ說キ起シ所謂初期浸潤ハ最モ意義アルモノニシテコレモ肺尖結核同樣何等ノ症狀ナク存在シウルモノナレバ自覺症狀ヲ有セザル人ニ就テモ尙檢査ノ必要アルモノニシテ夫レニ向ヒテハ「レントゲン」ガ最モ有效ナリト云フ、次デ初期浸潤ノ症狀「レントゲン」所見、發見法等ヲノベ特ニ「レントゲン」診察ニヨレバ充分初期浸潤ヲ發見シウト爲シ。著者ハ開放性結核患者ノ近親者、患者ニ接近セシ者、「インフルエンザ」經過者、補習學校生徒等ノ結核患者ニ關係ナカリシ者等ノ現在健康者ト見做サレ居ル者ノ多數ニ就テ檢査セシ結果其ノ內ノ相當數ニ於テ初期浸潤ノミナラズ開放性結核患者ヲモ發見シヨリトテ其ノ成績ノ詳細ヲ數字的ニ述ブ、是等ノ成績ヨリシテ結核患者ノ血緣者及ビ結核患者ノ接近者ハ時々「レントゲン」ニヨル診察ヲ必要トシ尙ホ又シカラザル健康者ニ於テモ初期浸潤ヲ早期ニ發見スルタメニハ「レントゲン」透視ハ必要ナリトナス。從ヒテ「レントゲン」透視ハ現在ニ於テ行ハレヲルヨリモヨリ屢〻施行セラルベク今日ニ於テハ聽診、打診ヨリハレカニ必要視スベキニテ、「レントゲン」裝置ヲ期セザル結核相談所ハ結核ノ初期發見ニ向ヒテハ何等ノ價値モ有セザルモノナリト極言ス。

勿論早期ニ發見ナスモ急性進行ヲナス側ナシトセザルモ兎ニ角前記ノ事項ニ注意ヲナセバ時期ヲ失セル結核ノ發見ヲ少ナクナスコトヲウルモノナリ云々ト云フ。

（佐々抄）

12、最近ノ結核發生觀ヨリ見テ人工氣胸ノ肺結核治療ニ及ボス效果

Dr. Gustav Baer

本論文ハ著者ガ人工氣胸ヲ以テスル治療ニタヅサハレル十七年ノ經驗ヲ基トシテ、人工氣胸ノ技術、副作用效果等ニ關シテ詳述セルモノニシテ人工氣胸ガ肺結核治療上著效アルヲ力說シ尙ホ二十有餘ノ「レントゲン」寫眞ヲ揭ゲオレリ

（佐々抄）

13、ランケノ病期分類說ニ就テ

L. Lydtin.

ランケノ肺結核ノ病期ニ分類ニ就テ著者ノ所見ヲ述ベオル論文ナリ。

（佐々抄）

14、初期浸潤ノ發生及ビ慢性肺結核ノ原因ニ關スル問題ニ就テ

Dr. Frankel.

初期浸潤ノ病理的生理的ノ意義及ビ慢性肺結核ノ原因ニ關スル從來ノ報告ハ

家族的遺傳、濃厚初期感染ノ機會ト竝ニ鎖骨下浸潤ガ體內再感染ガ體內再感染ナルカノ點ニ就テ尙不充分ナリトテ夫ニ就テ著者ノ所見ヲノベオレル短キ論文ナリ。

（佐々抄）

15、肺萎縮ニ關スル病理解剖學的、臨牀的竝ニ實驗的研究

Dr. Fanny Krampf.

著者ガ肺萎縮ト云フハ瘢痕ヲ形成スル結締織發生ニ依リ呼吸器ノ縮少ヲ來シ從ヒテ其ノ働キ竝ニ呼吸器ト直接關係アル他臟器ニ障碍ヲ來スガ如キ過程ナリ。

コレニ關シ著者ハ各方面ヨリノ實驗的所見ヲ遂ゲテ次ノ如キ結論ヲナセリ。

余ノ研究ハ肺萎縮ノ過程ヲ綜合的ニ病理解剖學的原因及ビ解剖學的臨牀的結果方面ヨリ觀察スルヲ目的トセルモノナリ、尙コレニ關スル實驗ハ夫レ以內ニ於テ如何ナル程度マデ血行關係ノ障碍ニヨリ肺內ニ結締織萎縮ヲ惹起シウルカ、而シテ特ニ其ノ際ニ來ル變化ガ如何ニシテ起ルカ且ツコレガ如何ニ說明セラルベキモノナルカヲ示スモノナルベシ。卽チ

Ⅰ、肺萎縮ハ次ノ場合ニ來リ得、(1)「クループ」肺炎、痲疹、「グリッペー」ノ際ノ肺炎衝、「フォスゲン」等ノ瓦斯又ハ酸性蒸氣ノ吸入等種々ノ原因ニ依リシ肺炎ノ後、(2)塵埃吸入、(3)結核及ビ黴毒。(4)肺膿瘍、是等ノ場合ハ凡テ一次性炎衝性硬化ニシテ此ノ外二次性ニ來ルモノトシテ、(5)所謂先天性氣管枝擴張症、氣管枝狹窄及ビ氣管枝閉息ノ場合ニ起ル炎衝ニヨリ呼吸道ノ病的變化後ノモノアリ。

Ⅱ、肺萎縮ハ又人工的ニモ惹起セシメ得、卽チ、(1)肺動脈分枝ヲ結索スルコト。(2)肺動脈分枝ト心臟ニ至ル靜脈トヲ同時ニ結索スルコト、コノニヨレバ最モ高度ノモノ來ル。(3)心臟ニ至ル全部ノ靜脈ノミヲ結索スルコトニヨリテモ多クノ場合ハ來ル、但シコレハ必ズシモシカラザル事アリ。

Ⅲ、肺萎縮ノ結果トシテ來ル解剖學的臨牀所見トシテハ肺自體ニ於テハ局所的肺氣腫ト二次的氣管枝擴張ガ見ラル、肺ノ健康部ハ代償的肺氣腫トモ見ルベキ擴張ヲ來ス。肋膜癒著ガ同時ニ存スル場合ハ(1)縱隔腔及ビ其ノ內容臟器ノ偏曲、(2)胸廓ノ變形及ビ脊柱ノ彎曲、(3)機械的變位ノ程度ニ應ジ血液循環ガ全體ニ於テ影響ヲ受ケ末梢部鬱血、過重ニヨル右心ノ肥厚及ビ擴張、故ニ夫等ニ因スル臨牀的所見ヲ來ス、(4)實驗的研究ニヨルニ肺動脈分枝結索ノモタラズ結果ハ氣管枝擴張症ノ一定ノ型ノモノヽミニ相當ス。肺動脈分枝ト心臟靜脈トノ同時結索ハ其ノ爲メニシバ〳〵來ル高度ノ榮養障碍ノタメニ成功セザルコトアリ。肺靜脈ノモノ結索ハ特別關係ニ於テノミ行ヒウルモノナリ。

是等動物實驗ニヨリ得タル成績ハ但シ直ニ以テ人體ノ病的現在ノ說明ニモチ來シ得ザルハ勿論ナリ。

（佐々抄）

16、衞生會議員オスカ…、ヒッシンゲル

同氏ハ永年肺結核治療所醫學會ノ會頭ヲツトメタリシガ一九二八年四月二十三日ニ五十五歲ヲ以テ突然ニ逝去シタリ。本文ハ同氏ノ經歷、業績等ヲノベタル追悼文ナリ。

（佐々抄）

17、動物ト人類トノ同部位ニ於ケル肺結核發生ノ比較對照觀察

Herbert Fox.

著者ハ表題ノ如キ事項ヲ研究スルハ野獸殊ニ人類ニ緣近キ動物ノ結核ヲ研究シテ以テ人類結核治療ノ端緒ヲ得ムトスルナリト冒頭シ Rhesus macaque（獼猿）Green Monkey, Schmidts monkey, Mandrill baboon, Vervet Monkey, Black-faced Gelay, 有蹄類、有袋類等ノ肺結核ノ發生部位ヲ比較研究セリ動物間ニ於テハ人類ト全ク同樣ナル病歷及ビ結核ノ解剖學的發生學ハ未タ發見サレナイタメニ動物試驗ノ結果カラシテ人類ニ如何ニシテ發病スルカヲ決定スルニハ大ナル注意ヲ要スベシ、又野生有蹄類ト家畜有蹄類ノ結核ノ間ニモ全ク相似タル關係アリ。靈長類ノアル族ノモノハ他ヨリモ遙ニ感受性強キハ事實ニシテコレハ又肉食動物及ビ齧齒類ノアル族ノ中ニモ事實ナリ。高中ノ屬スル有蹄類ハ著者ガ觀察シタル凡テノ族中ニ於テ罹病狀態ガ同型ニシテ全族ガ略ゝ等シキ感受性ヲ有スルト信ゼラル。但シ猿科ノモノハ罹病セザリキ。是等ヨリ考フル時ハ動物ガアル一定ノ狀態ニアル時ニ初メテ結核菌ニ遭遇スル場合ニ罹病スルモノニシテ人類ニ於ケルガ如ク亢ノ治療ヲ來スコトナシ。動物ノアル變種例ヘバ「カンガルー」ノ如キコレハ菌ニ對シテ感受性ナキガ如シ。人類ガ結核菌ノ浸襲ニ打勝ツナラバ感受性及ビ抵抗力ノ特殊ナ自然的型ニヨルモノカ又ハ遺傳デアルカ又ハ小兒期ニ早クカラ菌ニ接觸シテタメニ抵抗力ヲ得ルノデアルカ人類ハ一種特有ナル反應ヲ呈スルノデアツテ又食肉類ハ成人ノ如クアル種ノ靈長類ハ青年ノ如ク反應シ他ノ種ノ靈長類ハ全然反應シナイノハ興味アル事デアル。

抄録

ソコテ結核感染ノ開始進展結果ニ於テハ門、族、科ノ個性ト思フモノガ大切デアル樣ニ見ユル云々。

（寺尾抄）

18、結核治癒ノ原理

F. M. Pallenyer.

結核治療ノ原理ヲ知ラムト欲セバ先ヅ初感染ト再感染トニ對スル身體反應ノ鑑別ヲ知ラザルベカラズ。初感染ノ治癒ヲ見ルト菌ガ體內ニ侵入シタル時ハ直ニ表皮樣細胞ト多數ノ白血球ニヨリテ之ヲ包圍シテ結節ヲ作ル。コノ時ハ多クハ非特異性反應ナリ。次デ淋巴道ニヨリ他ノ部位ニ移行シテ病竈ヲ作ルモノニシテ「アルレルギー」ヲ來ス以前ニハ衰衝反應ヲ起サズ。菌ノ侵入シタル場所ト部位淋巴ニ非特異性反應ノ起ル事ハ最モ多ク見ルトコロニシテ他ノ臟器ニ來ル事ハ極メテ稀ナリ、結核菌ガ成育シテ若干ハ體液中ニ入リ之ニ對スル體細胞ノ反應ヲ惹起スルニ至ル之ヲ第二期トス。三時ノ反應ハ特異性ナリ。カク初感染ニヨリ過敏トナリタル體細胞ハ實驗的再感染ニヨリテ見ルニ初感染後四乃至五週間後ニハ既ニ其機能ヲ現ハシテ慢性的經過ヲトラシムルニ至ル。細胞過敏ハ網狀組織ニ昂マリ次デ Gallcheuois (Hage and Yeen トンテ治癒ニ對シテ主要ナル役割ヲナスモノナリ。初感染ハ本質的ニハ急性症ニシテ初發結核ノ治癒ハ石灰化ヲ伴フ。初感染ノカク治癒スルハ菌數少キニヨルモノ、如ク多數ナルトキハ急性結核ノタメニ死ニ至ル。再感染ノ治癒ハ初感染ノソレニ比シテ根本的ニ異ルモノナリ。初感染ハ非免疫人體又ハ非過敏人體內ニ起ルニ反シ再感染ハ免疫人體內ニ多數菌ノ侵入セルモノニシテ慢性的經過ヲトルモノナリ。卽チ再感染ハ第一、前感染ニヨリ既ニ發生セル免疫力ヲ增シテ生命ヲ延長シ、第二、體細胞ノ「アルレルギー」性反應ヲ鼓舞シテ侵入者ヲ防キ第三、反應ヲ起シテ既存セル病竈內部又ハ其周圍ノ治癒ニ向フニ

好都合ナラシムルモノナリ。感染ヲ防グニハ二相アリ。一ハ病竈又ハ其附近他ハ全身ニシテアルモノハ非特異性アルモノハ特異性ナリ。反應ノ程度ハ輕度ノ充血乃至著明ナル滲出物ニシテ共ニ慢性結核ヲ治癒セシメムトスル現象ナリ。乾酪化ハ屢〻纖維化シ組織シ缺損ハ代償機轉ニヨリテ治癒ス。半酪化シタル結節ハ氣管枝中ニ破裂シテ菌ヲ體外ニ排出シテ害毒ヲ防グ。體細胞ハ再感染ニヨリ侵入シタル菌ニ對シテ特異性ニ反應スルト同時ニ原病竈中ニ竈反應ヲ生ゼシメ慢性結核ノ運命ヲ決スルナリ。尚人體ノ結核菌ニ對スル作用ハ約言スレバ豫防及ビ治癒ノ二種ニ盡キ喰菌現象ノ如キハ前者ニ屬シ纖維化等ハ後者ニ屬ス。尚著者ハ自家「ツベルクリン」ノ治癒的效果ニ就テ意見ヲ吐露ス。（寺尾抄）

19、結核性胸内ニ注入シテ之ヲ不透過トナス爲ノ米國製沃度加油劑

Clarke Blance and Harvey K. Livesay.

本劑ハ「バリウム」又ハ蒼鉛等ガ投影セザル如キ微小ナル結核空隙中ニ滲入シテヨクソノ目的ヲ達シ得、且ツソノ空隙中ニ豬溜セズシテ次第ニ流出シテ空隙ヲ閉塞セズ又他ノ方角ニ穿孔セズ。任意量ヲ使用スルモ何等ノ反應ヲ起サズ加之値ノ廉ナル迄ハ共ニ目下使用サレツヽアル製劑ヨリ遙ニ勝レリ。（寺尾抄）

20、非結核性胸内像診斷ノ目的ニヨルX線寫眞

L. R. Sante.

著者ハ肺葉性肺炎、肺膿瘍、肺萎縮、原發性肺腫瘍、肋膜腔浸出物、特發性氣胸等ニ關シ「スケッチ」ヲ揭ゲテ肺結核トノ鑑別ヲ行ツテ居ル。（寺尾抄）

21、肺結核ニ合併セル肋膜炎ノ診斷學的及ビ豫後學的意義

Fred H. Heise and Lawrason Brown.

著者等ハ Trudeau Sanatorium ノ患者ニ就テ肺結核ト肋膜炎ト合併セルモノヲ臨牀的及ビ物理的診斷ニヨリテ確メタリ而シテ其經過ヲ見ルニ滲出性肋膜炎ハ肺結核ノ豫後ニハ全ク影響ナキモノヽ如シト。（寺尾抄）

22、活働性肺結核ニ於ケル病竈ノ進行

Fred H. Heise.

著者ハX線寫眞ニヨリ嚴密ニ檢査シタル活動性肋膜炎及ビ肺結核患者一五二名ニ就テ其病竈ノ進行ヲ具合ヲ觀察セシニ肺結核ハ異リタル部又ハ同一ノ部位ニテ殆ント同時ニ進行スル所ト退行スル所トアルラシク從ツテ病理學的ニ二ツノ活動性病竈アリトモ其性質ハ進行性ト退行性トノ反對ノ意味ヲ有スル事ガアリ得ルト。（寺尾抄）

23、Long ノ合成的培地上ニ結核菌ヲ發育セシメタルモノヽ化學的變化

Treat B. Johnson and Alice G. Renfrew.

一、合成培地上ニ人型結核菌（H三七）ガ發育スル度ガ增加セル期間中ニハ培地ノ危機「アンモニア」含量及ビPHニ連續的變化アルヲ特有トス。二菌ノ發

育ガ竭ムカ又ハ發育率ガ菌ノ自家溶解率ト明ニ平衡ヲ保チタル時ハPH及ビ「アムモニア」値ハ比較的一定トナル。三、菌發育ニ對シテ既知組成ノ無「プロテイン」合成培地ヲ使用シタル事ハ「プロテイン」ノ酸素性消化ニヨリテ作ラレタル「アムモニア」及ビ「アミン」カラ起ル普通ノ合併現象ヲ除去スルニ益ガアツタ。四實驗ニヨリ性反應ト菌ノ發育トノ間ニ相互關係アルヲ知リ Frothingham, Weinzirl and Knapton 及ビ著者等ノ得タルPH曲線ハ大體一致セリ。五、發育第四週ノ終リニPHガ突然ニ變化スルハ培地中ニ還元的物質(糖?)及ビ可疑「プロテイン」ガ出現スルガタメナリ。六、Long 氏培地ニ結核菌ガ發育スル場合ニハ接種後第六週中ニ最大ニ達ス。 (寺尾抄)

24、結核患者ニ放射卵ヲ食セシメタル前後ノ「リポイド」「フオスフオラス」「コレステロール」比

Duncan F. Mc Rae & Thorsten Ingvallson.

水銀石英燈ニテ照射ヲ受ケタル鷄卵(「リポイード」)ガ結核ノ臨牀上ノ短過ニ何等カノ影響ガアルカ否ヤモシアリトスレバカクノ如キ影響ハ「レチヽン」對「コレステロール」比ニヨルカヲ定メントシ五人ノ患者ニ六週間前記卵ヲ食セシメテ其前後ニ於ケル兩者ノ比ヲ檢シタル結果ハ陰性ナリシト。

(寺尾抄)

25、抗酸性菌ニ關スル研究

一、癩菌接種ニヨル家兎ノ白血球反應。

Edgar Jones and. W. O. Tirrill, Jr.

癩菌ノ接種ニヨリ淋巴球及ビ單細胞ガ比較的少數增加シダレドモ一過性ナリ、反復接種スルモソノ都度同一ノ結果ヲ來スヲ見レバ癩菌體內ニハ是等血球ヲ一時的ニ增加セシムル物質ヲ含ム事ニ想像セシム。コノ特殊ガ一般抗酸性菌ニモ適有ナルカ又其病原性ニモ比例スルモノナルカヲ究ムルハ興味アル問題ナルベシ。 (寺尾抄)

26、抗酸性菌ニ關スル研究

二、恥垢菌接種ニヨル家兎ノ白血球反應

Leo Schwartz, Jr., and R. S. Cunningham.

著者ハ恥垢菌及ビ毒性結核菌ヲ接種シタル家兎ノ反應ニ於テ兩者間ニ共通點ナキ手ヲ檢索セリ、其結果流血中及ビ組織內ノ單細胞增加ヲ見ル。恥垢菌ハ何等毒性ヲ有シナイガ大量ニ動物ニ接種スル時ハ肺及ビ他ノ組織ニ病竈ヲ起シテ遂ニ其爲ニ斃ルヽニ至ル。恥垢菌ト結核菌トニ對スル動物ノ反應間ノ類似セルコトハ重要ニシテ兩者間ニアル共通性アル事ヲ示セリ。著者ノ實驗中二例ニ於テ第二回注射後突然全身反應ヲ起シテ死シ剖檢ニヨレバ組織變化ハ宛モ結核ニ於ケル「アルレルギー」ニ似タリ。尙病竈ニアル表皮樣細胞ヲ研究スルニ多數ノ菌ガ喰セラレテ居リ其多クハ中性赤空胞ニヨリ圍繞セラル。想フニ菌ノ退化初期ナリ。本假說ハ未ダ證明セラレザレドモ恥垢菌ノ場合ニハ結核菌ノ場合ヨリモ遙ニ多數ノ菌ガ活働性空胞ニヨリ圍繞セラレ居ル事ハ之ヲ暗示セルモノト考フベキナリ。 (寺尾抄)

27、「サナトリウム」ニ於ケル食餌問題

Ernst S. Mariette.

「サナトリアム」療法ノ根柢ヲナスモノハ安靜大氣榮養ノ三ナリ。就中榮養ヲ

以テ第一トナスハ云フマデモナシ。著者ハ成人一日ニ三千「カロリー」ノ熱量ヲ必要トシ内「プロテイン」七〇乃至一〇〇瓦、炭水化物三〇〇乃至四〇〇瓦ヲ必要トスルヲ主眼トシテ獻立表ヲ作リ且傳票ノ作リ方等ヲ記シテ料理ノ單調味ヲ防ガント努ム。

（寺尾抄）

結核專門外雜誌

28、結核感染及ビ罹病ニ及ボス「ラノリン」飼食ノ影響

一、肺結核ニ及ボス影響

松沼宗良

（成醫學會雜誌第四十七卷第七號）

著者ハ「ラノリン」飼養家兎ハ屢〻肺炎ヲ惹起シ或ハ筋肉、眼、皮下等ニ於テ化膿ヲ起シ易ク、而カモ一度化膿スレバ殆ンド治癒シ難キノミナラズ、外觀的ニ化膿ヲ認メザルモノニ於テモ、之レガ死後剖檢ニ際シ、各種藏器ニ膿瘍竈ヲ認ムル事稀ナラザルハ既ニ大高、森博士等ノ記載セル處ナリ。又今博士ハ「ラノリン」飼養中ノ家兎ニ於テ、比較的感染シ難シト稱セラル、人型結核菌ニ自然ニ感染セルモノアリシ事ヲ報告セリトシテ更ニ多クノ文獻ヲ引用セラレ而シテ實驗的ニ長期「ラノリン」ヲ以テ家兎ヲ飼養シ血液、組織液並ニ組織細胞ニ多量ノ「ヒョレステリン」ヲ蓄積セシタル家兎ニ對シ結核菌ノ感染試驗ヲ行ヒ「ヒョレステリン」ハ結核感染及ビ罹病ニ對シ如何ナル影響ヲ與フルモノナリヤノ病理組織學的研究ヲ企テ、興味アル所見ヲ得ラレ第一報告トシテノ結論左ノ如シ。

1、「ラノリン」飼養家兎ニ牛型結核菌ヲ注射スルトキハ、其感染率ハ對照家兎ニ比シテ著シク高度ナリ。

2、「ラノリン」飼養家兎ノ結核病竈ハ、早期ニ於テハ對照家兎ト大差ヲ認メ難キモ、稍〻時日ヲ經過スルニ從ヒ結節ノ大サハ對照ニ比シ遙カニ大トナリ、且ツ滲出性變化ヲ伴フ事強ク、病變ノ進行急速ニシテ容易ニ乾酪變性ニ陷ル傾向ヲ有ス。

3、斯クノ如ク、「ラノリン」飼食家兎ニ於テハ結核ノ感染率高ク、且ツ病竈ノ變化ガ高度ニシテ、病機進行ノ急速ナル傾向ヲ有スルハ「ラノリン」飼養ニ原因スル事明カナリ、而シテ「ラノリン」ガ如何ナル作用ニヨリテ斯ル影響ヲ有スルヤノ問題ニ關シテハ恐ラク免疫體產生ニ關係アル組織球性細胞ガ、「ラノリン」飼養ニヨリ、異常ニ體内ニ增加セル脂肪質ヲ不絕攝取シテ機能飽和ノ狀態トナリ、或ハ更ニ進ミテ機能ノ減退ヲ來セル事ガ少クトモ其ノ一部ノ原因ナラント信ズ。

4、「ラノリン」飼養家兎ノ結核病竈ニ出現スル各種脂肪質ハ對照家兎ノ結核病竈ニ出現スル脂肪質ト同樣ニ、中性脂肪ヲ以テ始マリ、之ガ增加スルニ從ヒ「ヒョレステリン」ノ沈著ヲ來シ、更ニ病竈ガ壞死ニ陷レバ、此部ノ「ヒョレステリン」ガ消失シ、又中性脂肪モ漸次減量消失スルモノニシテ、脂肪酸、「リポイド」反應ノ現出ハ病竈ガ可成時日ヲ經過セルモノニ於テノミ認メラル。

（加藤抄）

29、肺結核患者ノ瞳孔不等症ニ就テ

吉橋孝

（千葉醫學會雜誌第六卷第九號、第十號）

（一）、肺結核患者三一三例中瞳孔不等症アルハ二四例ニシテ第二期ノモノニ

多シ。(二)散瞳側ハ片側性病竈ノ場合ニハ罹患側ニ一致シ兩側性ノ時ニハ右側ニ多シ。(三)瞳孔不等症ハ既往ニ於ケル肋膜炎ト關係アリ。(四)瞳孔不等症ト特殊關係ヲ有スル臨牀的症候ハ認メ難シ。(五)瞳孔不等症ニ於ケル、「アドレナリン」點眼ニヨル散瞳ハ健康者及ビ不等症ヲ伴ハザル肺結核患者ニ於ルヨリハ頻繁ニ發現シ又、之ニヨリテ潛在性瞳孔不等症ヲ屢〻發見ス、其ノ頻度ハ肺尖部結核ノ凡ソ四五%ニ當ル。(六)肺結核患者ニ於ケル、「アトロピン」散瞳持續ハ健康者ニ於ケルヨリモ一般ニ永續ス。(七)瞳孔不等症ハ一過性ノモノナリ。(八)瞳孔不等症ト横隔膜心臟、肋軟骨化骨及ビ肺門部ノX線所見トノ間ニハ特殊關係ナキモ肺野ノ變化トハ關係アリ。(九)瞳孔不等症ヲ發現セル肺結核ト然ラザル場合トノ胸部X線所見間ニハ著シキ差異ナシ。(十)肺結核患者ニ於テハ同感性反應陰性ナルモノナキモ肋膜炎ニ於テハ稍〻存ス。(十一)光度ヲ次第ニ減ズル時ニ瞳孔不等症ヲ呈スル事アルモ、次第ニ增ス場合ニハ斯ルコトナシ。

(池上抄)

30、肋膜炎ノ實驗的研究

岡村三郎

(北越醫學會雜誌第四十三年第五號)

氏ハ最近特發性肋膜炎ノ成因ガ悉ク結核ニアリト云フ說ニ反對ノ傾向アルヲ認メ其成因ニ就キ統計的觀察動物實驗剖檢的觀察滲出液ノ研究ニ依リ次ノ結果ヲ報告セリ。

一、家兎ニ電氣刺戟ト同時ニ寒冷ヲ加フルトキ結核ト無關係ニ四十八時間後ニ肋膜腔ニ一定量ノ液ヲ生ズ。

二、漏溜液ハ蛋白質含有量比重リバルタ反應竝ニ細胞學的檢査ニヨリ滲出液ニ近キヲ認ム。

三、組織學的、肉眼的ニ刺戟ニ依リ肋骨肋膜變化(下層組織ノ粗糙)ヲ認ム。

四、肺炎雙球菌ヲ家兎ノ體內ニ接種シ以テ抵抗力ヲ減退セシメ而シテ電氣刺戟ヲ加フル時ハ又容易ニ滲溜液ヲ生ズ之人體ノ輕症肋膜ノ類ニアラズヤト。

(岩岡抄)

31、喀痰中結核菌陰性ナル肺結核患者ノ喉頭結核

Blezat, N. Rh., and C. H. Würtzen.

(Zentralbl. für die gesamte Tuberkuloseforschung, 29. Band, Heft 9/10)

臨牀上確實ナル喉頭結核患者九二一名中一七例ハ喀痰中ニ結核菌ヲ見出ス事ヲ得ザリキ、(「モルモット」ノ試驗モナセリ)喉頭ノ感染ハ血流ヨリスルモノト肺痰ニヨルモノトアリ、咳嗽ニヨリテ輕キ損傷ヲ來ス時ハ其場所ヨリ感染ヲ容易ニスル事アリ、多ク咳嗽ヲナストキニハ喉頭結核アルモ咳嗽ヲナサヾル馬ニ於テハ喉頭結核ハ稀有ナリ。

(春木抄)

32、二歲以下ニテ「ツベルクリン」反應陽性ナリシ小兒ノ觀察

Söderström, Hjalmar.

(Zeutralbl. für die gesamte Tuberkuloseforschung. 29. Band, Heft 9/10)

Helsingfors ノ小兒科病院ニ收容セル小兒中二歲以下ニテ「ツベルクリン」反應陽性ナリシモノ、結核死亡率ハ五九・六%ナリ、一九〇九年乃至一九二〇年ノ間ニ於テ二歲以下ニテ同反應陽性ヲ呈セシモノ二三五名アリテ其中二二五

名ハ經過ヲ觀察スル事ヲ得タリ、其一三四名ハ結核ニテ二五名ハ他ノ疾患ノタメニ死亡シ六六名ガ生存セリ、一年以内ノ死亡率ハ六三・七%、第二年ニ於ケル死亡率ハ五〇・六%ナリ、男子ノ死亡率ハ女子ニ比シテ稍〻大ナリ、死亡率曲線ハ三目及四月ニ於テ最高ヲ示ス、結核ニテ死亡セル一三四例中一二九名ハ二年以内ニ死亡シ五名ノミガソレヨリ一乃至三ケ月永ク生存セリ。死亡セル中六九名ハ肺結核ニテ四九名ハ結核性腦膜炎及ビ粟粒結核ナリ、生存セル六六名中四四名卽チ六九・八%ハ健康ニシテ臨牀的ニ結核性症候ヲ呈セズ、他ハ淋巴腺腫脹或ハ輕微ナル肺症狀ヲ呈ス、而シテ生存セル六六名ヲ全體トシテ見ルニ三・二%ハ强壯、六八・三%ハ健康、九・五%ハ健康ナレドモ稍〻虛弱、一九%ハ病弱ナリ。

（春木抄）

33、肺結核ト妊娠、殊ニ妊娠中絶併ニ避妊問題ニ關スル考察

Schulze Rhonhof.

(Klinische Wochenschrift Nr. 42 1928)

妊娠ノ肺結核ニ及ボス影響結核治療ノ手段トシテノ妊娠中絶結核ト生兒トノ關係、避妊法等ノ各項ニ就キ廣汎ナル文獻ヲ引用シ、ソノ說紛々タル中ニ最近ニ於ケル專門諸家ノ傾向ヲ指示シ次ノ如ク結論セリ。

結核妊婦ガ診ヲ乞フ場合ニハ結核專門醫ト產科醫ト合議シテ先ヅ臨牀的觀察ヲ行フベシ、而シテコノ際ノ觀察日數ハ二三日ニ止ムルコトナク數週間ニ亙リ、ソノ間安靜榮養療法ヲ行フベシ。コノ方法ニ從フ時ハ積極的ノ醫家ニテモ單ニ數日ノ觀察ニ依リテ決定スル場合ヨリモ妊娠中絶ノ適應例ハ甚ダシク減少スベシ。觀察ノ結果非活動性結核ナレバ結核專門家ノ監視下ニ於テ續イテ治療スベク、療養所等ニ收容スルヲ最上策トス。尙又觀察期間中ニ病勢進行ヲ明示スル症候現ハレタル際ニモ若シ妊娠四ケ月以後ナル時ハ前ト同樣ニ保守的ニ治療スベク、三ケ月以前ノ場合ニ於テハ妊娠中絶ガ問題トナル。然レドモコノ際ニ如何ナル方途ニ出ヅベキカヲ決定スルニ當ツテハ最モ愼重ナル考慮ヲ加フベシト。

（柴田抄）